



組込みシステム技術協会機関誌

vol. 96

Bulletin JASA

2026
Jan.

新春特集

業界2026年の見通し

会員企業 景気動向アンケートより

年頭所感 会長 竹内 嘉一

新年ご挨拶 渡辺 琢也

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課長 兼 情報産業課 AI産業戦略室長

新年に寄せて ~支部長ご挨拶~

JASA改革プロジェクト報告

ソフトウェア駆動型社会への変革と日本の競争戦略 ～未踏の変革期へ踏み出す、確かな羅針盤～

イベント



EdgeTech+2025レビュー

「生成AIと製造現場の今」を伝える技術情報を発信／
グローバルフォーラム2025 開催報告／仮説検証ブートキャンプ
ETロボコン2026 25年目を迎えるETロボコン。

会社訪問



コードギア株式会社

レガシーと最新テクノロジーをつなぐエンジニアリングが使命
様々な組込みプラットフォームでの開発実績で確かな技術を提供

活動報告



[国際だより] インド視察レポート

トップリーダー倶楽部 関西万博視察研修 開催報告
「大人の社会科見学」によって「学び」「交流」「ビジネス創出」
[支部・委員会だより]
近畿支部／中部支部／九州支部
組込みシステムセキュリティ委員会／人財交流委員会

etc.

横田英史の書籍紹介コーナー／会員企業一覧

[Information]
ミドルステージ戦略委員会 募集案内／新入会員企業紹介

年頭所感

一般社団法人組込みシステム技術協会

会長 竹内 嘉一



明けましておめでとうございます。

旧年中は、当協会活動に格別なるご支援を賜り、心より感謝いたします。

本年も引き続きお力添えの程、よろしくお願ひ申し上げます。

2025年を振り返りますと、米国をはじめカナダ、ドイツ、韓国といった諸外国での首脳交代が相次ぎ、国際情勢が大きく動いた一年でした。国内におきましても、日本憲政史上初となる女性総理大臣が誕生し、新政権が発足したことは、歴史に刻まれる大きな出来事であったと感じております。新体制のもとで様々な改革が進められる中で、日本が正しい方向へと導かれ、持続可能な成長を実現することを心より期待しております。

そして2026年は、これらの政治経済の動向が実を結び、より具体的な景気対策や産業振興が進むことを切に願う次第です。

続いてIT関連のテクノロジートレンドを振り返れば、昨年の年頭所感で述べた“AI/生成AIがビジネス領域での活用”が想定以上に進み、昨年のEdgeTech+2025では応用技術・活用事例が花盛りという感想を持つぐらい普及を見せており、JASAもいよいよ業界団体としてのメッセージを発信する機運が高まってきたと感じた1年でした。

こうした中、JASAが業界団体として抱える

2つの課題(①組込みシステム業界の変化への追従、②会員企業向けサービスの充実)の対策に向け、『JASA改革プロジェクト』を発足、業界有識者の皆さんとプロジェクトメンバーとで議論を繰り返し、「JASAレポート:ソフトウェア駆動型社会への変革と日本の競争戦略」を策定、世に打ち出すことができました。JASAレポートの構成は以下の通りとなっています。

序章：ソフトウェア駆動型社会への変革
第1章：SDx時代の組込みソフトウェア開発
第2章：組込みAI開発の新たな潮流
第3章：ベンダーの新たな道筋と変革
第4章：JASAの提供価値とアクションプラン

JASAレポートの第1弾はJASAホームページからダウンロードできますので、是非とも一読いただき、皆様からの忌憚のない意見や要望などお寄せいただければ、その内容を吟味して、次弾のJASAレポートへとブラッシュアップして参ります。

2026年は、『JASAビジョン2030』の重点活動項目に加えて、「JASAレポート:第4章 JASAの提供価値とアクションプラン」の第1歩を踏み出します。まずはJASAが提供する5つの核心的価値を具体的な成果として実現する準備を始めるため、新たに以下の4つをテーマに対して組織化し、参加メンバーはJASA会員企業のみならず、広く業界の垣根

を越えて募集し発足を検討していきます。

1. AI技術を開発プロセスに統合し、効率と品質の向上を図るための研究・実証を推進
2. 日本の製造業全体が利用できる共通SDxプラットフォームの企画、開発、標準化の推進
3. 「人月ビジネス」から脱却し、高付加価値な「ナレッジ提供型サービス」への転換を支援する知見を蓄積・共有
4. SDx時代に求められるクロスファンクショナル・エンジニアの育成プログラムを開発し、多様な人材の交流を促進

今年の干支は「丙午(ひのえうま)」です。「丙」は“太陽のような明るさや情熱、強い意志”を象徴し、「午」は馬を表し、“行動力やスピード、エネルギー”を意味します。

今年は、前述の「JASAレポート:第4章 JASAの提供価値とアクションプラン」を具現化するために「丙午」の如く、情熱と行動力で突き進み、挑戦と飛躍の年にしていきたいと考えております。そのためには、会員企業の皆様のご理解とご助力が不可欠ですので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりますが、まだまだ寒さが続くなか、皆様におかれましてはインフルエンザや新型コロナなどの感染症にご留意いただき、今年も一年、健やかに過ごせる良い年になること祈念申し上げます。

Bulletin JASA vol.96 contents

※記載の会社名、製品名などは各会社の商標または登録商標です。※本紙掲載記事の無断転載を禁じます。

新春特集

表2…年頭所感 会長 竹内 嘉一

1…新年ご挨拶 渡辺 琢也

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課長 兼 情報産業課 AI産業戦略室長

2…新年に寄せて ~支部長ご挨拶

6…業界2026年の見通し 会員企業 景気動向アンケートより

4…JASA改革プロジェクト報告

10…EdgeTech+ 2025 レビュー

グローバルフォーラム2025 開催報告／仮説検証ブートキャンプ／ETロボコン

14…[会社訪問] コードギア株式会社

レガシーと最新テクノロジーをつなぐエンジニアリングが使命
様々な組込みプラットフォームでの開発実績で確かな技術を提供

16…[国際だより] インド視察レポート

18…[支部・委員会だより]

近畿支部／中部支部／九州支部／組込みシステムセキュリティ委員会／人財交流委員会

21…トップリーダー俱楽部 関西万博視察研修 開催報告

22…会員企業一覧 24…横田英史の書籍紹介コーナー

表3…[Information] ミドルステージ戦略委員会 募集案内／新入会員企業紹介／編集後記

新年ご挨拶

経済産業省 商務情報政策局
情報技術利用促進課長 兼
情報産業課 AI産業戦略室長

渡辺 琢也



令和8年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

世界では、米国の関税措置や、米中欧をはじめ各国による自国優先の大規模な産業政策の展開など、自由主義経済に代わる新たな国際秩序が生まれようとしています。国内に目を向けると、賃上げや国内投資が約30年ぶりの高水準となり、名目GDPも600兆円の大台を超えるなど、日本経済に明るい兆しが現れています。

一方で、物価高の影響により、家計や企業を取り巻く環境は依然として厳しく、決して楽観視できる状況ではありません。こうした中で、我が国に必要なのは、単なるコスト削減や短期的な需要喚起ではなく、GXやDXを通じて産業構造そのものを高度化し、付加価値と生産性を同時に高めていく成長投資です。今年も、官民総力をあげて、成長型経済の実現に取り組んでまいりましょう。

我が国は人口減少や少子高齢化という構造的課題に直面しています。労働力人口の縮小は、生産能力の低下を通じて供給面に制約をもたらします。このような課題を打破する新たな成長のエンジンこそ生成AIです。

昨年は、AIの低コスト化、エージェント化、マルチモーダル化、フィジカル世界への進出など、凄まじい進化を遂げました。生成AIは、既に現実の選択肢として定着しつつあり、産業や社会の生産性を根本から変革する段階に入っています。

こうした生成AIの進展を我が国の成長に確実につなげるべく、経済産業省では、これまで、プログラムを通じたAI開発力の強化や、計算資源の国内整備等を進めてきたところです。今後、AI開発力の更なる強化や社会実装の促進に向けて、日本が強みを持つ製造業や、高齢化・災害等の社会課題対応などにおける更なるデータ活用を促し、国際競争力のあるAIの開発・提供を促進していきます。

その際、多様な種類のデータに対応した基盤モデルを開発することで、高い品質のデータを安心・安全に活用する環境を整備し、フィジタルAIやAIロボットの開発を推進していきます。また、AIの普及に伴うリスクに適切に対応していくため、その手法に関する国内外のハブとして設立されたの抜本的強化に貢献すべく、研究開発等を推進していきます。

高市内閣が掲げる成長戦略において、

「AI・半導体」は戦略分野の1つ目に位置づけられており、今後、政府をあげて、設備投資や研究開発等の官民の積極的な投資を引き出していく方針です。今後の経済社会のイノベーションのコアであり、変化の激しいAIに対し、今後も不断かつ迅速に対応策を検討し、実行してまいります。皆様とも引き続き連携させていただければ幸いです。

これまで組込みソフトウェア産業は、自動車や産業機械などのモノのスマート化を実現する中核技術として、我が国の産業を力強く支えてきました。現在、AIが物理空間へと適用範囲を広げている中、こうしたフィジタルAIの実装においては、リアルタイム性やハードウェアの特性を踏まえた高度な制御・最適化が不可欠であり、その要となるのが組込みソフトウェアです。

組込みシステム技術協会及び会員の皆様におかれましては、引き続き日本のDX、さらにはAIを活用した産業変革の牽引役として、各方面でリーダーシップを發揮されることを期待しております。

皆様にとって、新しい年がより良き年となりますよう心から祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

令和8年 1月

会 副 事 業 推 進 本 部	長 長	竹 内 嘉 一	ET 事 業 本 部 長	鴨 林 英 雄
会 副 事 業 推 進 本 部	長 長	竹 渡 博 之	交 流 推 進 本 部 長	佐 々 木 道 夫
副 事 業 推 進 本 部	長 長	内 辺 大	人 材 育 成 事 業 本 部 長	杉 本 浩
副 事 業 推 進 本 部	長 長	佐 野 勝 行	技 術 本 部 長	竹 岡 尚 三
専 務 理 事	山 田 敏 行			

新年に寄せて～支部長ご挨拶

北海道支部



新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

会員企業の皆様におかれましても日頃より支部活動への多大なご協力ありがとうございます。

昨年は、大阪・関西万博の盛り上がりや記録的猛暑で国内最高気温を0.7°C更新。

森 操 HISホールディングス(株)

夏の平均気温は統計開始以来最高でした。物価高で米の価格が前年比162%増、コーヒーも値上げで販売金額が急増。生活コスト上昇が大きな社会問題となりました。クマ被害が話題となり市街地出没が相次ぎ、人的被害や死者が最多となりました。政治では初めての女性首相が誕生しました。世界ではトランプ大統領再就任されトランプ関税で輸出関係で大打撃をうけました。長引くウクライナ戦争やガザ停戦など国際

情勢が揺れ動いた年でした。

今年も、人手不足の継続で更なるDXへの期待が高まると思われます。生成AIが加速的進化しており今後色々な分野で使われていくと思われます。

北海道支部の新年抱負としては、他支部との交流を積極的に行う事と色々なワーキンググループに参加したいと考えています。継続的に会員を増やす、支部会員の共創を進めて行きたいと思います。

東北支部



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。会員企業の皆様におかれましては日頃より支部活動にご協力いただき心より感謝申し上げます。

昨年は生成AIが急速に普及した年であったといえます。ChatGPTやGeminiに

堀内 忠夫 (株)コア

代表される大規模言語モデルが一般的な企業にも導入され、様々な業務の効率化が進みました。心強い道具であるとともに、脅威となっています。また、東北全域で熊の脅威にさらされた年でもありました。

これらの勢いは収まらず、さらに加速すると予測されています。特に、フィジカルAIによるロボットの自律動作は産業革命をもたらすとまで言われ、我々組込み業界のビジネス環境を大きく変えるものと考えられて

います。

本年は、こうした業界の変化を的確に捉え対応していくために、JASA会員が共創していくことが肝心と考えています。昨年からの引き続きとなります。良き支部の在り方を模索し、探索し、目指して参ります。会員企業の皆様も共に、地域交流を加速させ、コミュニケーションの機会を増やして、東北地区全域を活性化させていきましょう。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

関東支部



謹んで新春をお祝い申し上げます。年頭にあたり、会員企業の皆さんに謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2025年は生成AIが産業界に本格的に浸透し、組込みシステムの世界にも大きなパラダイムシフトをもたらした年となりました。従来のルールベース制御に加え、学習型アル

ファンマヌエル エステベス ビジネスキュー・アンド・パートナーズ(株)

ゴリズムが組み込まれた製品が次々と市場に登場し、私たちの業界は新たなステージへと進化しつつあります。

この技術革新の波は、同時に新たな挑戦も生み出しています。リアルタイム性や応答時間の予測可能性をどう両立させるか、限られたリソースでAI処理をいかに実現するか、そして何よりも安全性をどう担保するかといった課題に、業界全体で取り組む必要があります。さらに地政学的な緊張の高まりは、

半導体供給網の見直しや技術的自立性の確保を迫っており、中長期的な戦略の再構築が求められています。

こうした複雑な課題に対しては、一企業だけでの対応には限界があります。だからこそJASAという場での情報共有や協業が重要性を増しています。関東支部では本年も、会員企業間の連携強化や最新技術動向の共有を通じて、皆様のビジネス発展をサポートして参ります。

中部支部



新年、明けましておめでとうございます。
また日頃より中部支部の活動に対し格別なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

伊藤 秀和 東海ソフト(株)

さて昨年度は従来の技術動向セミナー（今年度は生成AIとSDV）に加え各大学キャリアセンターとの情報交換会を開催しました。また喫緊の課題である技術者の流動性の高まりに対応するため人事制度の勉強会を企画し2月に開催予定であります。

中部支部では、今後も経営層間の情報交換だけでなく、こういった実務層の勉強の場を提供し、その輪を支部間にも拡充していきたいと思います。

本年もよろしくお願ひいたします。

近畿支部



2026年は本格的なAI時代の到来を実感する年となり、我々の業界も眞の変化が求められる時代を迎えます。

昨秋発表されたJASAレポートでは、ソフトウェア駆動型社会の未来像が描かれ、これからJASAと各企業が進むべき方向への提言がなされました。

JASA近畿支部は、これからも「使える

塙路 直大 (株)Bee

JASA」であり続けると同時に、ローカルな支部としての役割を地域にとどめず、JASA全体に還元できる存在を目指したいと考えております。具体的には、昨年から準備を進めてきた「インクルーシブIT研究会」にて、多様な人材が活躍できる環境づくりの研究を積み重ね、最終的には提言としてアウトプットする活動を推進します。

また、地方開催における展示会の方についてもワーキンググループを立ち

上げ、各支部へのフィードバックを行っていく予定です。これまで通りの活動としても、会員同士の交流促進を念頭に置いた各種セミナーや、企業の各層を意識した社員同士の交流会、懇親会を開催するほか、他支部のみならずJASA以外の地域団体との交流も積極的に進めてまいります。

2026年は先行きが不透明な分、新たな可能性に満ちたワクワクする年です。本年もJASAでの活動を共に楽しみましょう！

九州支部



皆様あけましておめでとうございます。穏やかでよいお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
組込みシステム業界においては、IoTデバイスや自動運転技術が今後も進化し、要求される機能が高度化して開発の難易度が上がっています。対応できる人材の不足も深刻になっていくと

白井 恵 (株)メック

思います。

こういった局面では、組込み技術を要素技術としてだけでなく、ネットワーク通信・クラウド・AIなど他の分野、技術と連携させ、新たなビジネス価値を創出しいかねばならないと思います。

さて、九州支部はまだ加入企業が少なく、メンバー増員が引き続きの課題です。支部会での勉強の機会を増やし、国や自治体の組織、地元の教育機関との連携をおこなうことにより知識

や技能を向上させる。さらに各社の業績アップに直接的につながるよう積極的に情報交換やマッチングをおこなっていくことを目標に掲げています。

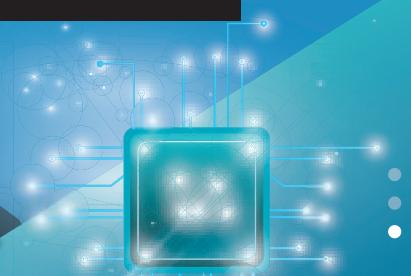
そういう活動を続けていくことにより「JASAに入ってよかった」と言う方が増えれば、メンバーは自然に増えていくのではないかと考えています。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

九州支部会員一同

ソフトウェア駆動型社会への 変革と日本の競争戦略

～未踏の変革期へ踏み出す、確かな羅針盤～



当協会は2025年11月、日本の組込みソフトウェア産業の未来を左右する重要提言「JASAレポート：ソフトウェア駆動型社会への変革と日本の競争戦略」を発表しました。レポートでは、経済産業省が提唱する「大臣官房若手新政策プロジェクトPIVOT (Policy Innovations for Valuable Outcomes and Transformation)」の成果を踏まえ、生成AIとSDx(Software-Defined Everything)の潮流の中で、我々日本の製造業とベンダーはいかにして生き残り、世界で勝つかにに関する提言をまとめました。本稿では、レポートが示す「3つの根本的課題」と「日本の勝機」、そしてJASAが描く新たなロードマップについて解説します。

現代の製造業は、かつてない転換点に直面しています。ハードウェアの品質で勝負する時代は終わりを告げ、ソフトウェアが製品の価値を定義し、継続的に進化させる「SDx(Software-Defined Everything)」の時代が到来しました。加えて、生成AIの爆発的な進化は、開発プロセスそのものを根本から変えようとしています。

JASAレポートはこの状況に対して、完璧な地図がない中で立ち止まつては変化の波に飲み込まれると警鐘を鳴らすとともに、不完全であっても今すぐ一步を踏み出すための「羅針盤」を策定しました。

横たわる3つの課題

課題① 開発変革

～「クローズド」から「オープン」へ～

従来の日本の組込み開発は、出荷時を完成形とする「クローズドシステム」でした。しかしSDx時代に求められるのは、出荷後もOTA(Over The Air)を通じて機能が進化し続ける「オープンシステム」です。

これに対応するためには、開発環境もモダナイズされなければなりません。サービス指向アーキテクチャ(SOA)の採用、コンテナ技術、そしてCI/CD(継続的インテグレーション/継続的デリバリー)によるDevOpsプロセスの確立が急務です。さらに生成AIで要件定義からコーディング、テスト生成までを自動化・支援することで、開発サイクルは劇的に短縮されます。この「高速な進化」こそが競争力の源泉となります(図1)。

課題② 組込みAI開発

～「ラストワンマイル」こそが勝機～

生成AIの登場は、クラウド上の情報処理だけでなく、物理世界(フィジカル)の制御にも革命をもたらします。既存の「ルールベース」に加え、AIがデータを学習して判断する「エンド・ツー・エンド」へのパラダイムシフトが進行しています。ここで日本が悲観する必要はありません。むしろ、ここにこそ最大の勝機があります。

クラウドで学習されたAIを、人命やイン

フラに関わるリアルな現場(エッジ)で安全に動作させる——この「ラストワンマイル」の実装において、日本が培ってきた「現場の擦り合わせ力」「安全性への執念」「ハードとソフトの協調設計」は、極めて強力な武器になります。

世界中のテックジャイアントがAIモデルを開発しても、それをロボットや自動車といった物理デバイスに統合し、産業レベルの品質を保証できるのは、日本の組込み技術をおいて他にありません。我々は「AIを安全に社会実装する翻訳者」として、グローバル市場で不可欠な存在になれるのです(図2)。

課題③ ベンダーのビジネスモデル変革

～「共通プラットフォーム」と
「ナレッジサービス」～

最も痛みを伴う、しかし避けて通れない課題がビジネスモデルの変革です。生成AIにより開発生産性が飛躍的に向上する中、労働時間に対する価値を求める従来の「人月モ

図1 継続的な価値創造のサイクル

IoTからAI、生成AI、CPS、OTAまで、先端技術が連携し、製品に継続的な進化と価値をもたらす革新的なサイクルを実現します。

SDxプラットフォームによる データ収集

SDxプラットフォームがAPIの利用を介してシステムの利用状況や必要な物理データの収集を行います。

インテリジェント・アクチュエーション (Edge AI & Actuators)

物理空間でエッジAIがアクチュエータ(機械)に指令を出します。

OTAによる更新配信

検証済みのソフトウェアアップデートはOTAを通じて製品に遠隔でデプロイされ、継続的な機能向上と価値提供を実現します。

AIによるデータ解析

収集されたデータは機械学習モデルによって解析され、製品のパフォーマンス改善や新機能開発の根拠となるインサイトが生成されます。

生成AIによる開発支援

解析結果に基づき、生成AIはソフトウェアのコードを迅速かつ効率的に生成・修正を行います。

CPSによるシミュレーション

生成されたソフトウェアはCPS環境(デジタルツイン)でシミュレーションされ、その有効性や安全性が検・調整されます。



図2 日本の3つの構造的強み

日本が「ラストワンマイル」で競争力を持つ理由として、AIの民主化が進むにつれ、基盤モデルの性能差は縮まり、競争軸は「社会実装の品質」に移ります。このとき日本には、三つの構造的強みがあります。

1 現場最適化力と安全設計文化(ただし新パラダイムへの適応が必要)

従来の人月モデルを維持しながら、生成AIを積極的に活用して開発効率を向上させます。AIによる自動化とコード生成により「短期納品」や「品質向上」という明確なメリットを顧客に提供し、信頼関係を構築します。

2 センサー・制御・組込み技術の深層的知見

ハードとソフトの協調設計で培われた、AI推論をリアルタイム制御に繋ぐ技術力。ミリ秒単位の制御システムとセンサーデータ処理の統合経験は、AIエッジ実装の優位性。

3 品質保証と社会信頼(新たな検証手法の確立が不可欠)

ミッションクリティカル分野の実績と信頼性は強み。しかし、これはルールベースの強みであり、エンドツーエンドAIには新たな検証認証手法が不可欠。日本はグローバルAI基盤を「安全に社会実装する翻訳層」として価値を発揮でき、その定義を新パラダイムに適応させる必要がある。

ル」は賞味期限切れがきています。生産性を上げれば上げるほど売上が下がるというジレンマに陥り、構造的に破綻しつつあります。この危機に対し、レポートはベンダーが進むべき「2つの出口戦略」を提示しました。

1. 共通SDxプラットフォームの構築者となる道

SDx対応には、SOAやOTA、高度なセキュリティなど莫大な開発投資が必要です。これを個社単独で行うのは困難です。そこで、JASA会員企業とメーカーが協力し、開発コストとリスクを分散しながら「日本発の共通SDxプラットフォーム」を共同で構築します。これにより、海外巨大資本に対抗しうる強固な基盤を築き、ベンダーはそこへ技術を提供する「構築者」として収益を得ます。

2. 高度なナレッジ提供者となる道

もう一つの道は、顧客の製品開発を支援する「ナレッジ提供型サービス」への転換です。具体的には以下の3ステップで変革を進めます。

【ステップ1(AI駆動)】人月モデルの中で生成AIを徹底活用し、効率化と品質向上で信頼を勝ち取る。

【ステップ2(IP駆動)】ドメイン特化のプロ

ンプトや技術パターンを「IP(知的財産)」として体系化し、高付加価値化を図る。

【ステップ3(ストック駆動)】蓄積したIPをサービスとして提供し、労働量に依存しない収益モデル(ストックビジネス)を確立する。ベンダーは、共通プラットフォームという「協調領域」を共に支えるか、その上で独自の「競争領域」となるサービスを展開するか。この共存共栄モデルこそが、人月脱却の鍵となります。

JASAの提供価値とアクションプラン～共創のためのプラットフォーム～

これらの課題は、一企業単独で解決できるものではありません。だからこそ、JASAという「場」が重要になります。JASAは、業界全体の変革を支援するため、以下の4つの専門委員会を新たに設置し、活動を開始します。

●AI支援型開発委員会 生成AIを開発プロセスに統合するための実証と研究。

●SDxプラットフォーム委員会 業界共通

の開発基盤(共通リファレンスアーキテクチャやツールチェーン)の策定。

●ナレッジサービス委員会 人月脱却に向けた知見の共有とビジネスモデル研究。

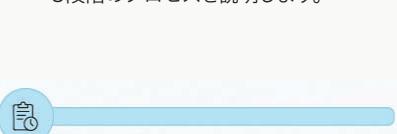
●企画型人材育成委員会 SDx時代に求められるクロスファンクショナルな人材の育成。

特に「共通SDxプラットフォーム」の構築は、各社がバラバラに投資している開発環境やミドルウェアを協調領域として標準化し、コストとリスクを分散させるための業界全体で取り組むべき一大プロジェクトと言えます。

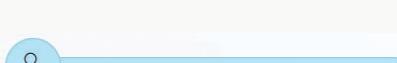
今回のレポートが示す変革への挑戦は、決して平坦な道ではありません。しかし、日本の製造業が持つポテンシャルと最新のデジタル技術とを融合させることができれば、必ず世界に類を見ない価値を創造できるはずです。「完璧な地図を待つより、不完全でも羅針盤を持って一步を踏み出す」。JASAは、会員企業の皆様と共に、この変革の荒波を乗り越え、新たな成長の地平を切り拓くための先導役を務めてまいります。共に、行動を起こしましょう。

図3 3つのステップによる段階的な変革

SIベンダーが「ナレッジ提供型サービス」へとビジネスモデルを転換するための、効率化から専門性向上、そしてサービス化へと続く3段階のプロセスを説明します。



従来の人月モデルを維持しながら、生成AIを積極的に活用して開発効率を向上させます。AIによる自動化とコード生成により「短期納品」や「品質向上」という明確なメリットを顧客に提供し、信頼関係を構築します。



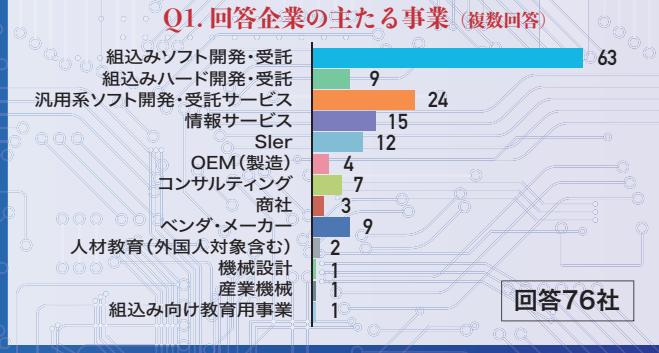
AIドリブンで効率化した時間を活用し、ドメイン特化型のプロンプトライブラリや技術的解決パターンを知的財産として体系化します。この専門性により人月単価の引き上げと差別化を実現します。



蓄積したナレッジをプラットフォーム化し、サブスクリプション型のサービスとして提供します。人月に依存しない継続的な収益モデルへと転換し、ビジネスの大幅なスケール化を実現します。

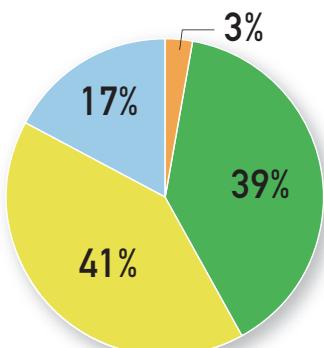
業界2026年の見通し

2025年は「AIの一年」だったとも言える。大規模言語モデル(LLM)により生成AIはますます高精度な処理が可能となった。すでに“次なるAI”と目されるフィジカルAIも実用化レベルに達しつつある。2026年は物理世界での本格的な具現化が予測される。テクノロジーと社会が激しく交差するなか、業界の景気動向をどう捉えるか、会員へのアンケートから紹介する。

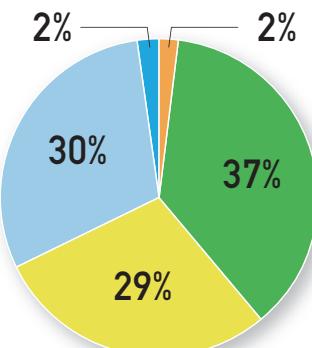


2025年を振り返って

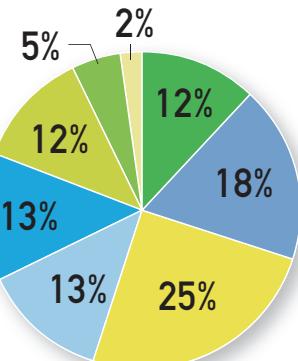
Q2-1. 2025年の貴社の業績はいかがでしたか？



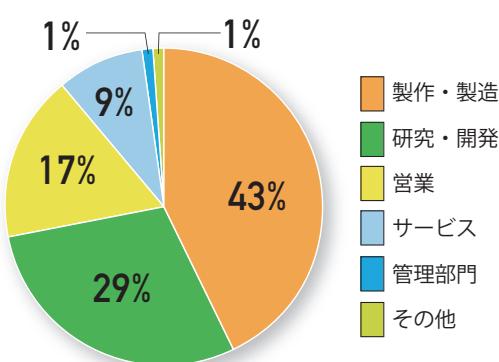
Q2-2. 前年と比較して2025年の業績は？



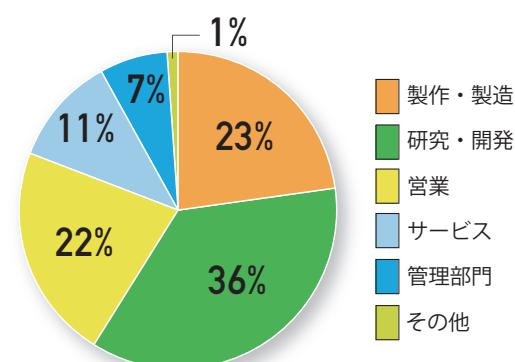
Q3. 2025年業績の伸び率は？



Q4-1. 業績に貢献した部門は？（複数回答）



Q4-2. 今後補強したい部門は？（複数回答）

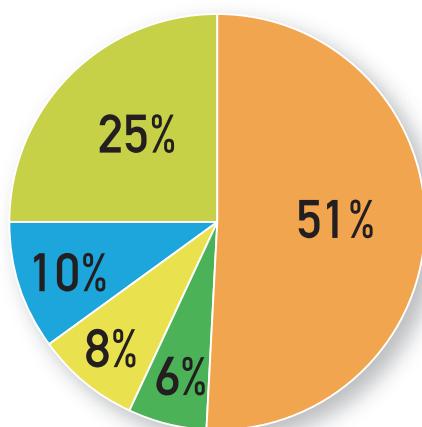


2025年の業績が“良好”(非常に良かった/良かった)だった企業は42%(Q2)。前回アンケートの業績予測で良好と見立てた回答(45%)からはやや減少。前年比較で「悪かった」が30%あり、期待値に届かなかつた企業が多くなったようだ。業績マイナスとなった企業が19%と前回より8ポイント増える結果となっている。業績に貢献した部門(Q4)は「製作・製造」が43%を占めた。

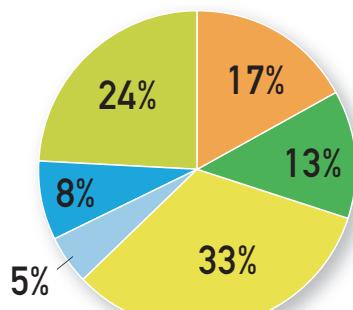
Q5. 業績への影響は?

- 人材不足
- 円安あるいは円相場の乱高下
- 物価高
- 半導体不足
- 米中貿易摩擦
- その他

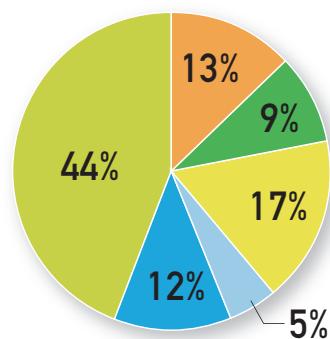
Q5-1. 最も業績に与えた影響が大きかった出来事は?



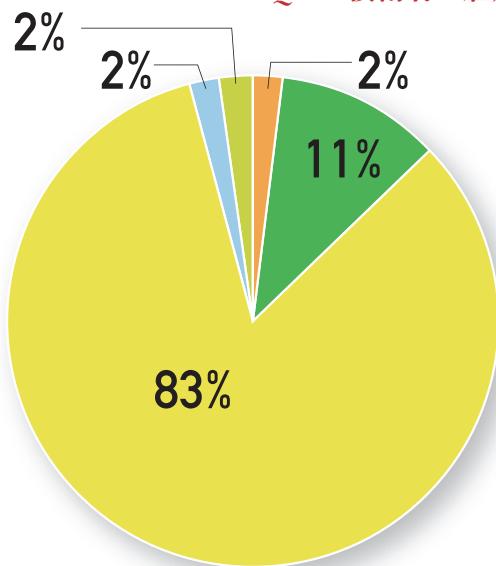
Q5-2. 2番目に影響が大きかった出来事は?



Q5-3. 3番目に影響が大きかった出来事は?



Q6. 技術者の雇用状況は?

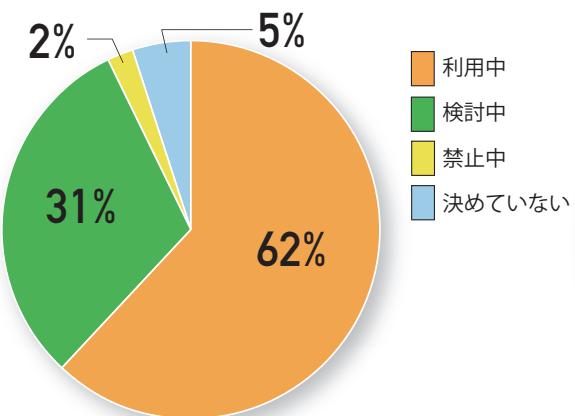


- 過剰
- 適正
- 不足
(積極的に採用していく)
- 不足
(採用は控える)
- その他

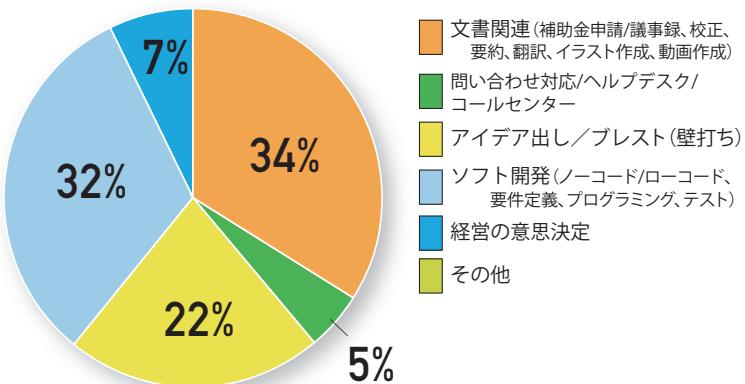
業績に最も影響した要因(Q5)として「人材不足」が最多(51%)だが、前回(69%)からは大きく減少している。3番めまで全体を通して見ると変わらず「物価高」の割合が多いが、次に続いたのが「米中貿易摩擦」。いわゆる"トランプ関税"が日本経済に大きな影響を及ぼしたが、特に大きな打撃を受けた自動車業界に関連する企業も多いことから数値となって表れたようだ。

技術者雇用(Q6)は「不足(積極的に採用していく)」の回答が83%。前回の74%から増えているが、割合は2年前(2024年1月発行号)の結果(86%)に近い。その前年は生成AIが爆発的に普及した年だった。大きな技術進化が起きている点では、似たような傾向が感じられる。

Q7-1. 生成AIの利用は?



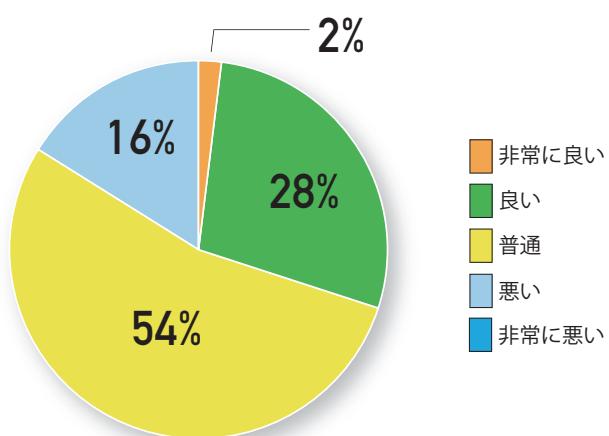
Q7-2. 生成AIは何に使う? (複数回答)



生成AIは「利用中」が前回の48%から半数超えの62%まで増加した。用途では「ソフト開発」が前回26%から32%に増え、「文書管理」とほぼ同じ割合になった。

2026年の景況予測

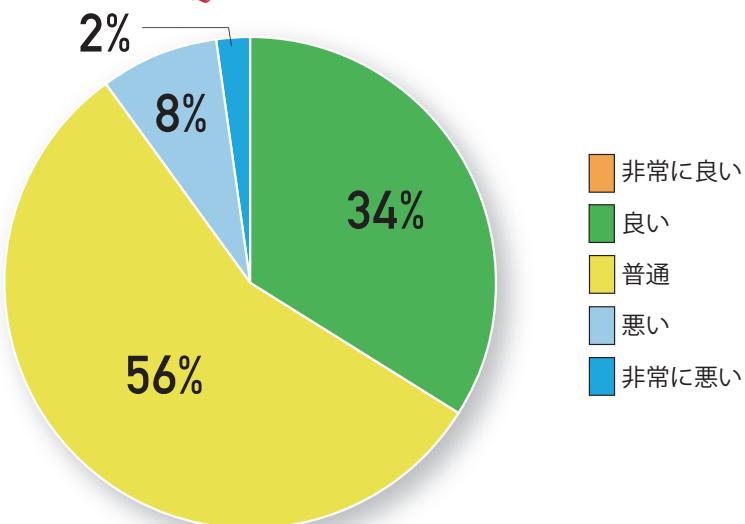
Q8-1. 2026年組込みシステム関係の景況は?



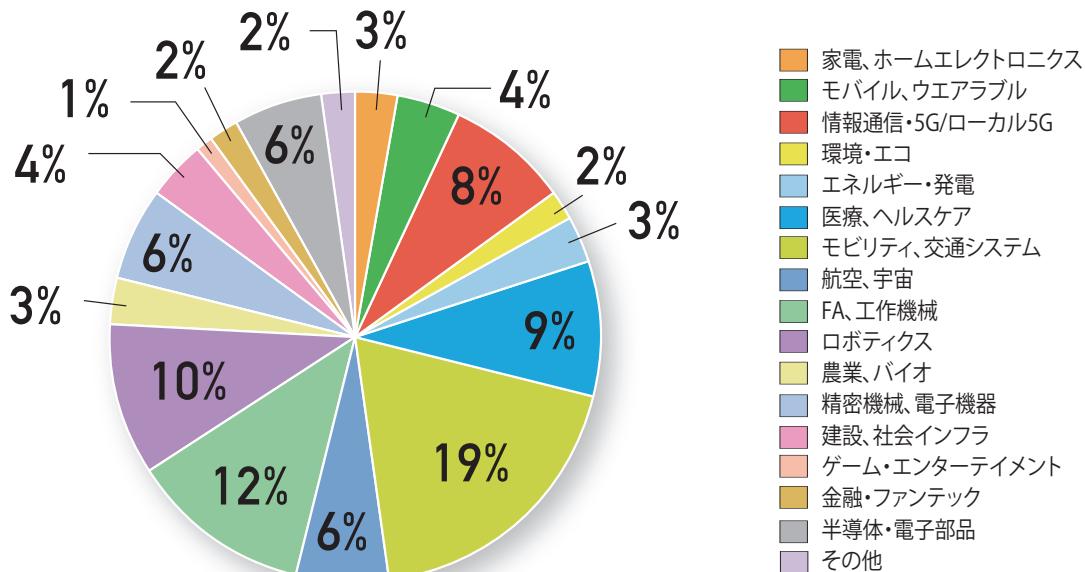
Q8-2. 景況の見立て、その理由は?

- 「非常に良い」理由：人手不足による効率化に伴う工場DX化が促進
- 「良い」理由：車、家電とも先行投資意欲が続く／Edge AIが拡大／円安によりメーカーの業績が良く組込みシステムに投資／生成AIの活用による開発規模増加／AI化とセキュリティ強化が拡大／オートモーティブ領域を中心にビジネス規模拡大／AIにより開発が効率化／SDxへの移行およびフィジカルAIの立ち上がりに対する投資の活発化 など
- 「普通」理由：技術者余りや車載関連の低迷で楽観できない／組込みシステム全体がコモディティ化／設備投資に大きな変化がない／生成AIによりプログラミング作業は激減するがより効果的なシステム開発の需要がある／企業の投資意欲が満遍なく向上していない など
- 「悪い」理由：トランプ関税による車載業界の予算縮減／生成AIによる破壊／モビリティの状況悪化／人件費高騰、部品価格高騰／開発予算、人材育成予算が減少 など

Q9. 2026年の貴社の業績は?



Q10. 成長を期待する分野は？（複数回答）



2026年の業界の景況(Q8)は「普通」とする回答が半数超えの54%に。「非常に良い」「良い」との回答は30%と前回48%から大幅に減少。「悪い」の回答も16%と前回の9%から倍近くに増えており、少々寂しい結果となった。エッジAIなどの普及と相まって、開発案件につながるか、まだ不透明と感じるかで回答が異なっているようだ。

企業単位での業績予測(Q9)でも同様の割合となっている。「普通」が過半数の56%と最も多い回答となった。「非常に悪い」との回答もあり、「悪い」と合わせ2桁の10%となつたのは気になるところだ。

成長を期待する分野(Q10)には「モビリティ、交通システム」が最も多い19%。「FA、工作機械」(12%)「ロボティクス」(10%)が前回より増え2桁となつた。

Q11. 2026年貴社にとってのキーワードは？（抜粋）

■キーテクノロジー、応用分野関連

- Edge AI ● DevOps ● SDV ● インフラ点検
- 防衛、宇宙開発 ● セキュリティ ● ナレッジビジネス
- モビリティ (SDV、OTA) ● FA/IoT (EdgeAI制御)
- モデリング ディペンダビリティ

■自社の環境改善・意識改善、新戦略

- 生成AIによる開発、生産性向上 ● 主体性と共に創
- コア技術の深耕 ● すべてのヒト、モノ、コトに信頼を
- 三方よし ● 事業規模の拡大
- 人月から価値へ、AIを使う会社へ
- 優秀人材の獲得、従業員の成長
- 社会のデジタル化への貢献 ● SDGsの達成 ● ESG経営
- 高付加価値ソリューションの提供
- 社会課題解決型商品の開発

Q12. 協会事業活動に対する意見・要望（抜粋）

- 「組み込み技術そのもの」がより際立ち社会的に注目される取り組み
- 日本での組込みシステム技術誕生と共に設立した協会として歴史を重んじ進化を続ける団体に
- 慢性的な人手不足など課題対策について各社の情報展開を
- ビジネス創出の重要プロセスを学べる研修の開催
- ビジネスを主体とした要素技術の勉強会
- メーカー間の横連携につながる事業活動
- 要件定義技術者の育成プログラムのWebセミナー
- ミドルステージ戦略委員会に期待
- ETSS改定への着手 (ETECのスキル標準の陳腐化を懸念)

「生成AIと製造現場の今」を伝える技術情報を発信

2025年11月19日(水)から3日間、パシフィコ横浜で開催された協会主催のEdgeTech+2025。

エッジテクノロジーの最新情報を発信した展示会・カンファレンスを振り返ります。

<https://www.jasa.or.jp/expo/>



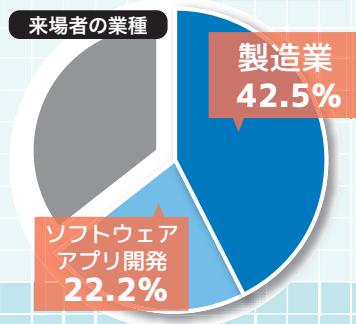
展示会場

『生成AIで変わる開発現場「コードを書く」から「AIと創る」時代へ』をテーマにエッジテクノロジーの最新情報を発信しました。3日間で32,429名が集った来場者の興味は、52%が「生成AI」と回答するなどAI関連が上位に並び、注目の高さがうかがえました。出展各社が工夫を凝らしたデモ展示に加え、さらに充実した特別企画『オートモーティブソフトウェアエキスポ』、多彩な企画パビリオンなどで全体を構成、最新テクノロジーが一気通貫に体験できる貴重な機会となりました。



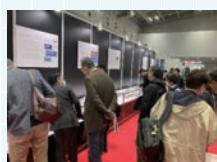
参加企業・団体数	329社・団体 (343社・団体)
出展小間数	543社・団体 (613社・団体)
来場者数	32,429名 (32,427名)

()内は2024年実績



セッション数	156セッション (144セッション)
聴講者数	14,953名 (14,333名)

()内は2024年実績



特別企画PickUp

第4回チップミュージアム開催 中高年に絶大の人気誇る

EdgeTech+会場で3日間だけオープンする博物館がチップミュージアムである。それぞれの時代で最先端の工業製品だった半導体チップ(CPU、メモリ、周辺チップなど)を実物展示する。今回で4回目の開催となった。

チップミュージアムは、i4004やZ80のように歴史的CPUをほぼ網羅し、パッケージの違い、メーカーの違い、ロゴの違いなど、館長の独断と偏見で選りすぐったチップを千数百個、加えて毎年頂くリクエストに応えたチップを展示するところに特徴がある。2025年はさらに4つのコラボ企画をお客さまをお迎えした。

1. トロンフォーラム様の協力による

トロンチップの特別展示

2. 金沢大学 秋田純一先生の協力によるDIY半導体分析の特別展示
3. 著名な圓山宗智氏の協力によるビジコン社4004電卓再現機の動態展示
4. 2年目のコラボ参加となる田山之浩氏の協力による電卓チップの展示

異世界空間を醸し出す

会場の床に張られた赤い絨毯に一步踏み込むと、そこは結界の中。誰もが異世界に転移する。当時技術を磨き、競い合ったコンペチタの面々はここでは昔話に花を咲かせお互いの健闘を称えあう仲間になる。これを館長はおじさんホイホイ効果と呼ぶ(女性が少ないのがちょっと悲しい)。

チップミュージアム館長
収集家
秀関 快郎 (しゅうせきかいろう)

館長の秀関快郎は勿論本名ではない。家族が考えてくれたものだ。ネットの姓名判断ではビジネス運以外は全て大吉だ。素晴らしいコレクションをお持ちの皆さんも是非ペンネームならぬチップネームを名乗り、コラボ展示企画に参加してほしい。

毎年全面的なご支援、広大なスペースとユーティリティをご提供いただいている協会並びに展示関係者の皆さま、コラボ展示に貴重な展示物をご提供いただいたパートナーの方々、お手伝いいただいた常連各位、熱い議論と貴重なご寄付をいただいたお客様に厚く御礼申し上げる。

おかげさまで今年の展示は過去最高の出来となった。次回の更なるパワーアップにもどうかご期待いただきたい。

グローバルフォーラム2025 開催報告

「世界のHUBシンガポールに学ぶ!～AIが加速する製造業革新とグローバル戦略の最前線～」がテーマでした。世界のHUBであるシンガポールに焦点をあて、AI戦略を含む国家戦略、先進製造ハブの価値、未来の製造業のカタチ、グローバルビジネスの未来、シンガポール起点ビジネス展開戦略と幅広いテーマでフォーラムを開催した。



国際交流委員会委員／
株式会社金沢エンジニアリングシステムズ
中西 尚子

●キーノート

アジアの先進製造ハブとしてのシンガポールの価値

シンガポール経済開発庁 日本事務所長

Kwek Cheah Ming 氏

東南アジアの交通の要所であるシンガポールは、貨物船便や航空便が豊富で、貿易に極めて適した環境を備えている。周辺諸国に近接していることからビジネスのハブとしての役割も果たし、金融・貿易・観光のイメージが強い一方で、製造業も盛んである。実際にGDPの17.3%を製造業が占めており、国の経済において重要な柱となっている。AIを導入した先進的な製造関連技術を推進し、今後10年間で50%の成長を計画している。労働集約型からテクノロジー主導型へと移行し、持続的な発展を遂げている。さらに人材育成を強化しているため、高いスキルを持つ人材の割合が多いことも特徴である。



●講演①

日本からシンガポールに移った企業が語る 未来の製造業のカタチ

技研サカタ シンガポール(株) 日本駐在事務所長

大塚 晴彦 氏

1970年にカセットデッキのメカ設計・組立てでシンガポールに進出した日本企業は、1992年に本社をシンガポールへ移転。組立工場として発展を続け、現在に至っている。特に「SIJORI成長トライアングル」を活用した製造業の展開が注目される。近年はシンガポールに近接するインドネシア・バタム島が脚光を浴び、労働力を活用した工場や電力を活用したデータセンターが増加している。バタム島への製造業の進出に伴い、人口も50年前の約9,000人から現在は約120万人へと急増している。さらに、技研サカタは次の35年を見据え、遠隔×分散型のものづくりを目指しており、広域的な産業ネットワークの構築に挑戦している。



●総括

シンガポールは、金融や観光の都市国家という枠を超えて、製造業とAI技術を融合させた新たな成長モデルを描いている。日本企業にとっても、シンガポールを起点とした東南アジア全体への展開は、大きな可能性を秘めているのではないかだろうか。今後のアジアの産業地図を考える上で、シンガポールの動向から目が離せない。

会場開催のグローバルフォーラムに多くの方に来場していただきました。講演者の方々、そして講演に協力して頂いた方々に感謝いたします。

たくさんの方に聴講していただけるような講演内容を発信できるように取り組んでまいります。また、国際交流委員会では、海外ビジネスの促進、海外人材の活用をテーマに、皆様方に役立つ国際情報を発信して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

●講演②

グローバルAIビジネスの未来像： シンガポール企業が語る最前線

NCS Pte Ltd ジャパン コリドー統括 ディレクター

尼子 公仁 氏

国営から民営へと移行し発展を遂げたNCSは、日本の電電公社がNTTへと転換した歴史と酷似している。現在、ヘルスケア、交通(特に空港)、金融サービス分野で東南アジアNo.1の地位を誇り、中国・香港・オーストリアへシステムを輸出するなど、グローバルな展開を加速させている。日本企業にとってシンガポールは、AIサービスの起点、海外拠点のデジタル管制塔、人材活用の場として重要な役割を担い得る存在である。



●講演③

日本企業が語るシンガポール起点のビジネス展開

情報技術開発(株) 常務執行役員

細井 一雄氏

シンガポールを拠点として、東南アジア地域におけるSAP導入支援事業の拡大を進めている。国ごとに異なる行動、思考、習慣への苦労もあるが、それを受け入れることが成功の鍵となる。



- ・シンガポール：合理的な発想、政府の圧倒的な力、物価は日本の3倍、時に上から目線
- ・ベトナム：人柄は優しくまじめ、ITや語学力に優れる、女性の活躍が目立つ、3年で職を変える傾向
- ・マレーシア：陽気で明るく調和的、時にいい加減、貴族階級の存在が力関係に影響
- ・インドネシア：優しい性格だが意見が合わないと過激化、宗教色が強く、テロへの警戒が必要



仮説検証ブートキャンプ

企画プレゼンテーション

2025年11月21日(金)

7チーム総勢36名が、Edge Tech+2025の会場内で行った「仮説検証ブートキャンプ」の企画プレゼンテーションについて報告します。「災害発生時には、デジタル嫌い又は苦手な人にITでどのような価値を提供できるか?」をテーマに、アクティングアウト(寸劇)形式で発表しました。たくさんの方に足を止めていたとき、寸劇を見て頂けました。

今回の特徴の一つは、新たに開発した「仮説検証キャンバス」というツールを用いて、仮説検証を繰り返したプロセスを見る化したことです。3回の仮説検証の繰り返しを表にまとめることができます。プレゼンテーションでも審査員の方に仮説検証のプロセスを明確に伝えることができ、ご好評をいただきました。

参加者からの反応は良好でした。HCD(人間中心デザイン)の手法と仮説検証を繰り返すことでチームとしてアイディアをブラッシュアップしていく過程を、実践形式で学ぶ事ができ、大変有意義な経験ができたとの感想を頂きました。事務局としては、次年度に向けて更なるブラッシュアップを行う予定です。

各チームのソリューションと受賞チームは以下のとおりです。最優秀賞と優秀賞は審査員の6名の投票と議論で選定、HCDファシリテーター賞は8名のファシリテーターの投票と審査員の議論で選定、オーディエンス賞は会場からの一般投票(0~3点で投票)をもとに選定したものです。

仮説検証ブートキャンプ <https://hv-bootcamp.biz/>

企画プレゼンテーションの模様



表彰チームとソリューション概要

練馬区水害対策室

『避難後パーソナルケアサービス』



2~3年後の近未来を想定し、生体認証などのITを活用した避難向けソリューションを提案。



チームふみ 『そなポイ』

防災支援×ポイ活会話型アプリ「そなポイ」は、日常で防災クイズやミッションに挑戦し、ポイントやクーポンを獲得できて家族と共有しながら楽しく防災を学べます。



お嬢

『LINEギフト災害支援』



LINEギフトを活用して被災地へ物資の支援を行います。



D-button(ディーボタン)

『MAMOLINK(マモリンク)』



「MAMOLINK」は、災害時にスマホが使えないでも“安全”や“助け”を伝えられるお守り型デバイスです。



■その他参加チームとソリューション名

みちしるべ開発部『AI電柱』、NOBU☆NOBU『ねりまーく』、みまもり隊『せたがや見守りステーション』

ETロボコン2026

25年目を迎えるETロボコン。

四半世紀にわたり、IT・組込み分野の未来を担うエンジニアたちの“成長物語”を紡いできた学びの舞台が、今年も幕を開けます。IT人材の不足が「量」だけでなく「質」の課題へと広がるいま、ETロボコンは単なる技術コンテストではありません。テクニカルスキルを磨くだけでなく、仲間とぶつかり、支え合い、チームとして前に進む力——そのすべてを体験できる“実践の場”として注目されています。

掲げるテーマは、「ヒトと組織が共に成長」。参加するエンジニア

ア一人ひとりの挑戦が、企業や教育機関という組織の成長にもつながる。そんな“共進化”的なサイクルを生み出すことこそ、ETロボコンが25年間大切にしてきた価値です。

エンジニアの持久力を鍛えるのは、一夜漬けの学習でも、単発の研修でもありません。継続的な学びと実践を通じて、自分の成長を“手触り”として感じられる環境。ETロボコンは、そのための最適なフィールドです。25年目の今年、次の未来をつくるエンジニアは、ここから生まれます。

ETロボコンHP <https://www.etrobo.jp>

2026シーズンの情報を
2月上旬に公開予定

IT・組込み企業のお困りごと2トップを体験下で学ぶ

学びの砂場

ソフトウェアの評価は、設計で決まる

教育機関や企業でも聖域

教育：そもそも「設計」の概念を知らない
企業：「設計」を学ぶ時間の確保が困難

学びの砂場

重要なのは、実践型のコミュニケーション

コミュニケーションとは？
×他人と仲良く話せること
○相手と意思疎通すること

求めるコミュ力とは？
×結果だけを求めるコミュ力
○価値を見極めるコミュ力

タイプ別で結果を導き出すコミュ力ではなく、
業務プロセス(目的)の視点でやり方を導き出すコミュ力

ETロボコンの特徴は4つ

ETロボコンとは

特徴 3つ + 1つ

1. 企業と教育機関のガチンコバトル
2. ソフトウェア重視の教育型ロボコン
3. 設計技法(モデル図)も評価対象
4. コミュカアップの修練道場(スキルを磨き鍛えること)



エンジニアの人材育成でお悩みの方は、まずはご相談ください！

オンライン相談会は随時開催しておりますので、お気軽にご相談ください。

詳しくは、ETロボコン事務局(secretary@etrobo.jp)までお問い合わせください。

2025年の走行体：
HackSPI dachs

EdgeTech+ 併催イベント ETロボコン チャンピオンシップ大会 2025年11月20日(木) 決勝大会 21日(金) ワークショップ

EdgeTech+ 2025(11月20日、21日)にて開催されたチャンピオンシップ大会には、36チーム(プライマリーカラス30チーム、アドバンストカラス6チーム)が進出しました。プライマリーカラスの競技部門では「TIIS-Mates(豊田自動織機 ITソリューションズ)」が優勝。アドバンストカラスでは競技・モデル両部門で好成績だった「札幌ギアワークス(リコーITソリューションズ株式会社)」が総合優勝を輝きました。

チャンピオンシップ大会の結果 https://www.etrobo.jp/championship2025_award/



レガシーと最新テクノロジーをつなぐエンジニアリングが使命 様々な組込みプラットフォームでの開発実績で確かな技術を提供

このほどJASAに入会いただいたコードギア株式会社(東京都世田谷区)。組込みLinux、Windowsの実績を強みに、OS移植やデバイスドライバ、制御系ファームウェア・アプリケーション開発を中心に展開、確かな技術力で顧客の信頼に応え続けている。Windows IoT on Armの対応や、エッジAIのプラットフォーム開発など事業を広げているところだ。そんな同社の近況を代表取締役の江島午郎氏にうかがった。

代表取締役 江島 午郎氏



創業前からWindows向け組込み開発に特化

システム運用における企業課題の一つにレガシーシステム対策がある。すでに新しく高度な技術がありながらも旧式のまま継続して使用されているソフトウェアやハードウェアで、業務上の重要な役割を担っているものがほとんどだ。アーキテクチャーの進化速度はすさまじく、20年も経ったものはレガシーシステムだといえるだろう。

コードギアは、そうしたレガシーシステムと最新テクノロジーをつなぐエンジニアリングを使命とする。代表取締役の江島午郎氏は「日進月歩で新しい技術がどんどん入っていくなかで、日本の産業分野ではレガシー化したシステムをずっと引き継いでいる企業がかなり存在します。我々は、そうしたレガシーシステムに実装する新しいテクノロジーを提供する活動を続けています」と話す。WindowsCE、組込みLinux、Windows IoT、エッジAI、各種デバイスドライバやファームウェアまで幅広く組込み技術を提供する。その内容は、企画設計開発販売、移植、受託開発、組込み機器向けソフトウェアに関する教育、コンサルティングにおよぶ。

創業は2002年で25期目を迎える。江島

氏は「あつという間です。それだけ我々も年齢を重ねてきたわけですが、私も含めて組込み技術者として20年30年の実績のあるメンバーが揃っています」と口にする。創業メンバーは、Windows Embedded向けツールベンダである米国NASDAQ上場企業の日本法人出身という。もともとはWindowsのドライバや開発ツールを専門に作成する日本の独立系ベンチャーだった。

「それがNASDAQ企業に吸収され日本法人所属になります。そうしたなかで、我々はやはり日本に向けて日本人ならではのエンジニアリングを日本で展開していくこうということ、私が中心になって設立しました」

「WindowsCE→Yocto移植」に際立った実績

1996年に最初のバージョンが提供された「WindowsCE」は、同社にとって重要なキーワードだ。組込み機器の制御用コンピュータ向けに開発されたリアルタイムOSで馴染み深い人も多いだろうが、カスタマイズ性が高く限られたリソースでも動作する設計が特徴で、これまでPDA、ゲーム機、カーナビ、ハンディターミナルなど組込み機器や小型デバイスで広く利用されてきた。すでに

全バージョンのサポートは終了している。

そんなWindows Embeddedのなかでもさらにコンパクトでリアルタイム性能を持つOSの黎明期から開発に関わってきたのが同社の技術者たちである。「マイクロソフト社がArmアーキテクチャなどの搭載デバイスに向け積極的に展開していた時期に、我々はそうしたデバイスからかなりのシェアのエンジニアリング業務の機会を得ていました。ニッチな面もあり他社ではなかなか応じるところがないという分野で実績を重ねてきました」

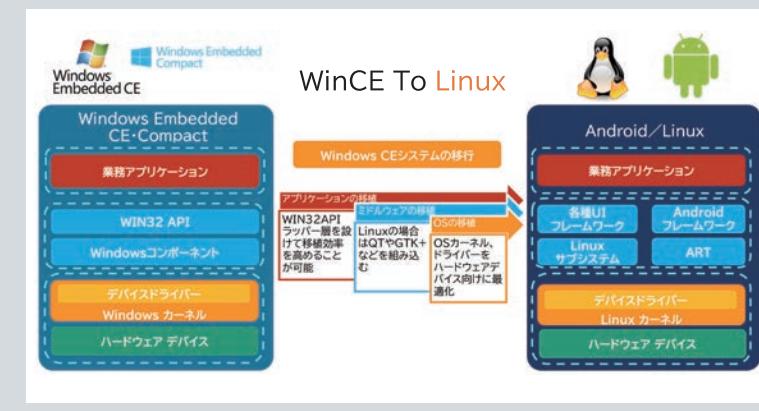
具体的にはYoctoへの移植が多いという。組込みLinuxディストリビューション構築にもっともよく利用されるフレームワークだ。組込みLinux開発においてデファクトスタンダードとして広く認知されており、多くの半導体メーカーとデバイスマーケターがサポートしている。「チップベンダーが非常にメンテナンスをしっかりとしていて、Yoctoベースは使いやすい。こちらからも薦めるのですがお客様からの要望も多くあります」

エッジAIは伸ばしていきたい分野

さらに最近は以下のようない業務にもアプローチしている。

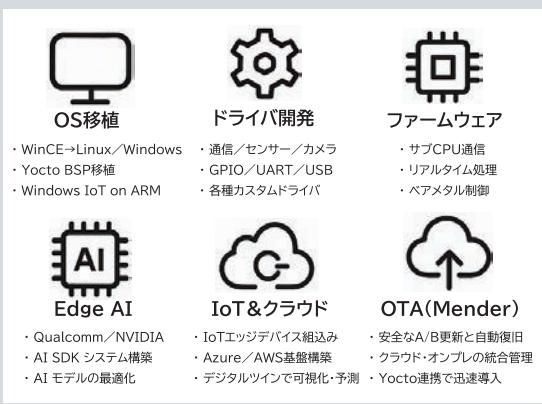
Windows CE システム移行サービスの概要

OSプラットフォームをLinux等に移行するためのエンジニアリングサービスを展開。可能な限りWindowsCEシステムの運用を希望する顧客向けに技術サポートサービスも提供している。



柱とする6つの事業領域

トレンドとなっているエッジAI、市場拡大が見込まれるArmプラットフォームなどサポート領域を広げ、より多様なエンジニアリングを展開していく。



- Windows IoT on Armエンジニアリング
- エッジAIのプラットフォーム開発、技術サポート
- 組込みシステム、IoTデバイス向けOTAソリューション「Mender」の移植、技術サポート

Windows IoT on Armは組込み機器向けに設計されたOSで、64ビットArmアーキテクチャベースのプロセッサプラットフォームをサポートする。江島氏は「これから日本の産業に食い込んでいくとしているOSです。SoCメーカーもサポートに注力していることもあり、市場規模も大きく拡大していくことが期待されています。特にドライバまわりでの実績を強みにアプローチしていく考えです」とする。

エッジAIの対応は「特に今後伸びていきたい分野」と位置付けている。AIの処理をクラウドサーバーではなくエッジデバイス側で直接おこなう技術だが、近年トレンドともなっているものだ。協会主催の技術展示会「EdgeTech+」でもエッジAI、フィジカルAIといった関連技術のソリューションが多くみられたが、その技術進化には目を見張る。こうしたなかでも、同社のWindowsに対する知識の深さが武器となっている。

江島氏は「OSの移植も、Windows側の分析ができるというところに我々が選ばれる理由があります。その特徴を生かし、WindowsのAPI層をLinuxに移植する。ア

プリケーションをつくられていた担当者はWindowsライブラリのAPIが使えるのでつくりやすくなります。こうした得意分野で技術を提供しつつもっと伸ばしていきたいと思います」と意気込む。

具体的な事例としてはJetsonと組み合わせた人侵入検知、エッジAIのリアルタイム制御評価などがある。JetsonはAI処理に特化した小型・高性能な組込みコンピューティングプラットフォーム。CPU・GPU・メモリなどを1つのモジュールに集積し、ロボット、ドローン、産業用機器などのエッジデバイスで画像認識や物体検出など高度なAI推論をリアルタイムで実行する。

「侵入検知は、JetsonとDeepStreamを利用したストリーミング(ビデオ)分析処理を使って、CPUにかかる高負荷を抑えた事例です。複数台のカメラを同時接続するとCPUに大きな負荷がかかる。それをJetsonのハードウェアアクセラレーションによる処理に置き換えた。4台のカメラからの映像をそれぞれが人を検知したことを検出し画像を合成してモニター表示する、といった一連の処理をJetson上で実現するために、我々がプラットフォームとドライバ、ストリーム処理の最適化といったことを実施しました。

またリアルタイム制御においてもこれまで重ねてきたスキル、知見を活かして評価をおこなっています。ロボットなどエッジAI端末でもリアルタイムに制御したいといったときにど

う組み合わせるかという事例で、Linuxとして特殊なリアルタイムLinuxを使ってGPIO、SPIなどI/Oレベルの挙動をリアルタイムに制御できるかどうかを評価しました」

OTA(Over-the-Air)ソリューションとして、移植・PoC支援・運用設計まで一貫した技術サポートを提供する「Mender」はLinuxとの相性が良いOSS。「特にYoctoとの相性が非常に良く、Yoctoを採用されたお客様には優れたOTAソリューションといえます。こういった完成されたソリューションを用いるのは一つの提案と思っています」

今後に向けて会員同士で交流を

常に最新テクノロジーと向き合う江島氏。その流れに乗ってビジネス機会も拡大しているそうだが、ここ最近の技術進化には「我々の立ち位置や提供すべき内容も変わっているから得られない」と江島氏は肌で感じているという。「25期目を迎えるビジネスモデルは良くも悪くも固まってきたなかで、特にここ2年の生成AI系の動きを見ると大きな変化の波を感じていて、いまのままで続けていくのも難しいだろうと思っています」

同じ環境下にいるJASA会員の意見もぜひ参考にしたいという。「いずれ来るであろう荒波をどう乗り切るのか、あるいはどう乗りこなそうと考えなのか。そうした情報交流をさせていただければ嬉しく思います」と会員同士の交流を楽しみにしている。

●「会社訪問」のコーナーでは、掲載を希望される会員企業を募集しています。お気軽にJASAまでお問い合わせください。



国際だより

インド視察レポート

毎年実施しているJASA国際交流委員会主催の海外視察研修で、2025年はインドを訪問しJASA会員14社総勢22名の参加があった。オ

フショア開発と人材活用のビジネスパートナー発掘に役立てることを主目的としている視察であるが、特に2025年は日本での就労を希望する優秀なインド人材を探し出す活動も、具体的な目的の一つに加えている。

今回訪問した大学4校では、学生に対してQRコードを通じたアンケート回答を依頼し、この結果をもとにインド人材の採用を希望するJASA会員企業と学生を結びつける新たな仕組みも構築した。



国際交流委員会委員／
一般社団法人 J-TEA代表理事
大津 健二

体である。2025年で設立50年を迎え、チエンナイでインド人材に日本語教育を行っていると共に、日印の間の言語、文化、技術、貿易、ビジネスの架け橋となる活動を行っている。

現在日本語教育を受けている学生や勤労者と、直接コンタクトをとる事ができたが、日本語のスキルは想像以上で、かつ日本での勤労意欲が高い人材が多くいることに驚きを感じた。



4日目 Chennai

VIT

(Vellore Institute of Technology Chennai)

チエンナイにあるインドを代表する私立工科大学の一つで、19の学部課程、18の大学院課程、更に工学・経営学・理学言語学分野の博士課程、工学分野の総合博士課程などを備えている。特に電子、コンピュータ、エネルギー分野に定評があり、日本語学習プログラムも提供しているため、近年は日本企業への就職を目指す卒業生が増加している。

学生数は6,500人ほどであるが、海外交流大学(協定校)は30校以上、留学生は1,200人とのことで、グローバルな活動を推進している。



3日目 Delhi → Chennai移動

国内線

CICPL

(Chromatography and Instruments Company Private Limited)

JASA会員企業であるCICのインド子会社である。インドのIT人材とソリューションを活用しながら、ITサービスを展開している。特にAI(Deep Learning)や情報セキュリティの分野へ注力して、活動の幅を広げている。

人材採用においてコスト(特に初年度の年収や昇級率など)について、具体的な質疑を行うことができたのは有益であった。



CIT

(Chennai Institute of Technology)

2010年に設立された工科系私立大学で、学生数は6,000人以上との事。情報工学の学科が重点だが、他にも機械や電気・電子工学等の学科も開講しており、工科系大学でありながら、日本語や日本文化等の教育にも積

【訪問先概要】

以下訪問した大学や企業、協会団体等について、見聞した内容を紹介する。

1日目 羽田 → Delhi移動

国際線 インド入国



2日目 Delhi

JETRO New Delhi

毎年の海外視察で最初に訪問するのが現地のJETROであり、今回は現地インドでのビジネスの現状を広く聞くことが出来た。所長のスピーチで、最近のインド産業で改めて強く意識した事を挙げると、

- ・コロナの影響が世界一大きく、経済も落ち込んだが、その後V字回復ができる事
- ・現在の注目産業はEVと半導体である事
- ・日系企業は8割が黒字で事業拡大方向である事
- ・最近のインドでは、人件費の高騰、離職率の高さが大きなリスクになっている事
- など、良いお話を聞けた。



ESC

(Electronics and Computer Software Export)

インド政府が後援する、インドで最も活発な貿易機関の一つであり、インド国内の2,500社を超える会員企業の、電子機器及び



IT製品の世界展開に大きな役割を果たしている。JASAとESCは、2000年にMOU(基本合意)を結んだパートナーであり、今回の訪問により、相互理解と協力関係を更に深めることを確認した。

Amity University

我々の訪問を大歓迎で迎えて頂き、日本との交流に期待感が大きい事を感じた。これは他の大学訪問でも同様であった。アミティ教育グループは、13の大学と28の学校・幼稚園で、20万人以上の学生を育成している。その最大拠点が今回訪問したデリーのアミティ大学で、デリー最大の私立総合大学である。

大学はロンドン、ドバイ、ニューヨークその他、世界の都市にキャンパスがあり、留学生も多く交換して、グローバルな活動をしている。



3日目 Delhi → Chennai移動

国内線

CICPL

(Chromatography and Instruments Company Private Limited)

JASA会員企業であるCICのインド子会社である。インドのIT人材とソリューションを活用しながら、ITサービスを展開している。特にAI(Deep Learning)や情報セキュリティの分野へ注力して、活動の幅を広げている。

人材採用においてコスト(特に初年度の年収や昇級率など)について、具体的な質疑を行うことができたのは有益であった。

ABK-AOTS DOSOKAI

JICAを通じ日本企業で研修を受けたエンジニア、経営幹部などが自主的に設立した団



的に取り組んでいる。

大学側の説明の後、日本で仕事を希望する学生と直接面談会が行われ、我々訪問者が1人ずつ、学生1人とテーブルを挟み面談した。



5日目 Chennai → Bengaluru移動 国内線

SIT

(Siddaganga Institute of Technology Tumkur)

地元の工科系私立大学で学生数4,400人の規模であるが、他に132の教育機関があり、9,000人の子供に教育と宿泊を無料で提供している、とのことである。学生への教育と共に教員のレベルアップにも力を入れ、博士号取得を支援している。

大学構内にある、企業が支援する学生の研究室を見学した際に、ルネサスの開発キットを使ったデモの一つとして、人体の動きを複数の直線で梯子状に表示するソフトに、関心が集まった。



System Consultant Information India

2003年にベンガルールを拠点とする日系IT企業に資本投資、2005年に現地法人設立、2009年には地元トムクールに自社ビルを竣工する、といった沿革を持つ日系企業である。日本からの保守運用プロジェクト請負開

発を中心に、活動を行っているが、日本企業がインドで仕事をするために必要となる、日本の文化や仕事の進め方などを理解するための、様々な社内研修を実施している。

トムクールはベンガルールに比べ地方ということもあり、都市部で育成した人材が流れていく現実もあるが、地方ならでは近隣の大学との連携が取れるなど、有益な面もあるとの事。



6日目 Bengaluru

STPI

(Software Technology Parks of India)

ベンガルールのソフトウェアテクノロジーパークを見学した。インド政府が主導し強力に支援する中で、多くのソフトウェア製品開発の企業と、優秀な技術者が集結している。IoT、AI、ロボット、医療、その他多くの分野のソフトウェアを開発し輸出している。

ここでは革新的なテクノロジー製品や、ソリューション構築するために必要なラボなどが整っており、特にスタートアップ企業が活



NEC India

ソリューションサービス事業を提供しているNECのインド会社。ICTを活用した通信、交通、物流、製造ラインのDXなど、幅広い分野でインド政府や企業に貢献している。

NECの持つ技術をフル活用した海底ケーブルの設置と、これを利用した通信ネットワーク構築の事例が紹介され、日本の会社ならではの強みを改めて感じた。

本社はデリーにあるが、インド各地に拠点を展開しており、今後のインド発展と共に事業も拡大すると思われる。



7日目 Bengaluru → 成田移動 国際線 帰国

【感想】

広いインド国内11か所を訪問する、かなりハードな行程となったが、インドの目覚ましい発展を実感する、有意義な視察であった。

先ず現在のインドの街の状況であるが、
・新しいきれいな街並みと、ゴミだらけの街並みが混在している様子
・交通マナーの悪さ、大気汚染
・野良犬だけでなく、野良牛が町で自由に闊歩している
など、まだ先進国とは言えないが、10年前の中国と似ているところも多いように感じた。

そんな街中も通りながら各訪問先を訪ねたが、そこでは半導体やAI、IoTなど、成長

が見込まれる産業へのインド企業の投資と熱意、そして国の強力な支援体制を感じられた。人口が多く若いインドの将来は、GDPでいずれ中国と肩を並べる存在になるのは、間違いないであろう。また大学も4校訪問したが、エンジニアとしての実践的教育を受ける、将来有望な学生が多くいることも改めて実感できた。

今回の視察は、今後インド人採用のための具体活動にも役立つと思う。

最後になりますが、今回の視察の企画や訪問先などの調整準備に、多大のご苦労をされた方々に、改めて感謝をいたします。



近畿支部

近畿支部 秋季セミナー

2025年10月22日に、近畿支部では秋季に3つのセミナーを開催しました。

総務セミナーでは、Flapの吉本敏恵氏に『人事・総務がキャリアを創る 社員の未来を支える仕掛けと視点～制度・仕組みだけじゃなく“関わる方”がキャリアを動かす～』と題してご講演いただきました。社内キャリアを育む制度は、作って終わりではなく「どう育っていくか」が活用の鍵となる、という視点が紹介されました。また、キャリア支援を組織に根付かせる視点や、人事・総務だからできる「キャリアを育てる仕掛け」、そして日常業務にキャリア支援の視点を加える工夫など、自社で実践できる具体的なヒントを得られる内容となりました。制度を整えるうえで、”本人がキラキラ輝いて仕事ができるように”という

思いの面や対話の大切さという部分に改めて気付くきっかけとなるようなご講演でした。

技術セミナーでは、ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社の大坪樹生氏を講師にお迎えし、『電磁両立性(EMC)の重要性と最新テクノロジーを搭載したオシロスコープの活用法』について解説いただきました。90年以上にわたり高周波業界で地位を確立し、EMC

測定分野で高い評価を得ているドイツ企業の専門家として、EMCの基本概念とその重要性に加え、最新テクノロジーが搭載されたオシロスコープを用いた効果的なノイズ測定・デバッグ手法を事例を交えて紹介いただきました。オシロスコープについて全く知識がない人でも理解が深まるような丁寧な解説で、更にローデ・シュワルツならではの技術向上の方法についても詳しくご説明いただきました。

ソフトウェア業界で働く女性のためのセミ

総務セミナーの様子



技術セミナーの様子



中部支部

大学・専門学校との情報交換会

2025年11月21日、ザ サイプレス メルキュールホテル名古屋にて、JASA中部支部会員企業と東海エリア11校の大学・専門学校が参加し、「就職・キャリアに関する情報交換会」が開催されました。企業と学校が同じテーブルで率直に意見を交わすこの会は、双方の理解を深める良い機会となりました。

最初に行われたのは参加企業と学校による自己紹介。自社の採用状況や学生支援の現場について共有され、参加者同士がお互いの取り組みや課題を知るきっかけとなりました。

その後は司会進行に沿って、設定されたテーマごとに意見交換が行われました。採用スケジュールや選考の流れ、求める人物像・スキルセットといった企業側の視点に加え、学校側からは学生へのキャリア教育の進め方、就職支援イベントの状況、学生の

価値観の変化などが紹介されました。現場で感じていることやちょっとした困りごとまで含め、自然と幅広い内容が共有されました。

企業にとっては学生の現状をより深く知る機会となり、学校側にとっても企業の採用方針や動きを理解する場となったことで、双方にとって実務に繋がる学びがあった時間となりました。

17時からは立食形式の懇親会が開かれ、よりカジュアルな雰囲気で交流が進みました。本音を交えた意見交換や、実際の現場での苦労話、学生のリアルな姿に関する話題など、テーブルを囲んでの対話は自然と笑顔が増え、参加者同士が肩肘張らず交流できたことで、距離が近づく良いきっかけとなりました。また、懇親会の場では、採用活動に向けた今後の具体的な連携方法や、イ



ンターンシップの実施、学生向けイベントの共同開催など、次のステップを意識した話題も生まれました。すぐに実施可能な取り組みから、長期的な協力体制まで視野に入れた話し合いとなり、単なる情報交換にとどまらない実りある時間となりました。

今回の会を通じ、中部地区の大学・専門学校との連携が深まり、今後に繋がる関係づくりが進められそうです。参加者からは「直接対話できる機会の価値を再認識した」「学生の変化を共有できて良かった」といった声も聞かれ、非常に有意義な交流会となりました。

ナーでは、「ワークライフバランスセミナー」と題して株式会社GPIの渡辺陽子氏にご講演いただきました。「キャリア形成とワークスタイル」をテーマに、女性特有のライフイベントとの葛藤を「楽しみに見える」ための考え方や、自分らしく働く働き方、キャリアプランについて考える機会となるセミナーでした。当日はワークシートを用いての自己分析やグループワークを行いました。自己分析をすることで自分を見つめ直し、新たな視点で考えるきっかけとなるようなご講演でした。

また、近畿支部では、今年度より「インクルーシブIT研究会」を計画しており、多様な人々がIT業界で活躍できる環境をともに考える第一歩となりました。

近畿支部では、今後も会員の皆様の要望に寄り添ったテーマでセミナーを企画し、皆様の発展に貢献してまいります。ご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。



九州支部

九州地域交流セミナー2025開催報告

九州支部では、九州最大級の展示会「モノづくりフェア2025」(マリンメッセ福岡にて、2025年10月15日～17日開催)に協賛し、会員企業4社が出展しました。また、同会場にて初日の15日に、JASA九州地域交流セミナー2025「AI×IoTが切り拓く新たな価値創造」を開催いたしました。

九州地域交流セミナー2025

講演1「廃棄りんごから生まれたエシカルレザー『RINGO-TEX』を通じて社会課題の解決と地球環境への貢献を目指す」と題し、appcycle株式会社 藤巻圭様にご講演いただきました。青森県のりんご産業が抱える廃棄課題を解決する「アップサイクル」事業の立ち上げ経緯や、同社が開発した搾りカス由来のヴィーガンレザー「RINGO-TEX」が、その環境性能と品質によりANAとのコラボ商品やSEIKOのバンドへ採用された実績など

をご紹介いただきました。全般を通して、产学研官連携により地域資源を世界へ発信し、持続可能な循環型モデルの構築を目指す熱い想いが語られました。

講演2「生成AIとIoTが創る次世代の現場管理」と題し、株式会社GUGEN 福士清之様にご講演をいただきました。

生成AIがIoTと連携し、自律的にタスクを遂行する「AIエージェント」へ進化していること、現場の動的情報はエージェントが自ら判断・実行し、そのツール連携には標準規格「MCP」が不可欠であることなどが解説され

ました。AIは単なる道具から「能動的なパートナー」へと変貌しており、これを使いこなし協働することが、次世代のビジネスにおける必須スキルになるとのご示唆をいただきました。

ネットワーキング交流会では、九州経済産業局の中井萌様から、九州地域でのDX人材のマッチング事業などの紹介をいただきました。講師の方も参加され、会員と活発な交流が行われました。今回得られたタッチポイントをもとに、新たな支部会員の拡大や、他の委員会、団体との交流を深めていきたいと考えております。

appcycle 藤巻氏の講演



GUGEN 福士氏の講演



九州経済産業局の中井氏



交流会の様子





次世代組込みOSSエンジニアのスキルマップ案を公開 The Linux Foundationとの協業の成果

組込みシステムセキュリティ委員会 委員長 佐野勝大

The Linux Foundation (LF) と当協会は、EdgeTech+2025で「OSSで実現するSDxと次世代エンジニア像」と題するセミナーを共同で実施しました。セミナーでは、トヨタ自動車と日立製作所におけるOSSへの取り組みについて講演していただくとともに、「OSS時代のソフトウェアエンジニア像とコミュニティの歩き方」と題するパネルディスカッションによって、出席者の方々に組込みOSSについての理解を深めてもらいました(写真)。これは両団体が2024年11月に発表した、「次世代の組込みOSS技術者の育成に向けた共同トレーニングプログラム開発」の一環となります。

また両団体はセミナーと併せて、「組込みOSSエンジニア向けのスキルマップ」の草案を公開しました。このスキルマップは、エンタリー、ミドル、アドバンスドについて、それぞれのレベルに求めるスキル標準を整理した

ものです。このスキル標準に対応した認定試験を通じ、エンジニアのスキルの可視化と価値向上を目指しています。

当協会がこうした取り組みを行う背景には、IoT化に伴う機能の高度化のほか、ネットワークやセキュリティ、OTA (Over The Air)によるサービス更新、AIなど、組込み機器においてソフトウェア駆動型の機能が中心となっている現状があります。これまでのような独自開発のみではスピードや技術が追いつきません。OSSの利活用が不可欠になっています。

組込み技術者の方が、得意とする高度な組込みシステム技術に加え、最新のOSS技術を当トレーニングプログラムで積極的に学ぶことで、組込みシステム産業の裾野が広がると考えています。さらに次世代の組込み機器の実現に寄与し、我が国の強みである製造業の国際競争力向上につながると



確信しています。

組込みOSSエンジニア向けスキルマップの草案については、2025年11月20日から12月19日にかけてパブリックコメントを募集しました。その結果をレビューするとともに最終調整を行い、2025年度中をメドに「組込みLinux開発者向け認定制度」の基本的な制度設計の最終版を公開する予定です。またトレーニングプログラムは、2026年度の開始に向けて検討を進めています。今後の展開にご期待ください。

新卒求人活動支援交流祭典2025 in 近畿 開催報告

人財交流委員会 委員長 安藤亘

2025年10月22日(水)、大阪市北区「兆-KIZASHI-」において、JASA主催の新卒求人活動支援イベント「交流祭典2025 in 近畿」を開催しました。本イベントは、関西圏の学生および学校関係者に対して組込みシステム業界ならびに会員企業の魅力を発信し、継続的な関係構築を図ることを目的としています。また、会員企業における新卒採用活動の支援も重要な狙いとしています。

委員会活動の一環として、関西圏の大学・専門学校へ広く案内を行うとともに、情報交換を重ねてまいりました。学生の参加促進はもちろんのこと、日頃より就職支援に尽力いただいているキャリアセンター担当者の継続的な参加につなげ、業界の認知度向上と関係強化を推進していく考えです。

当日は、JASA会員63名、学生17名の計80名が参加し、昨年度の71名を上回る盛況

となりました。まず業界紹介セミナーでは、JASAの活動概要に加え、組込みシステム業界の現状や将来性について解説。その後の交流会では、ビュッフェ形式の食事を楽しみながら、参加企業および学生の紹介を行い、企業と学生が直接対話できる有意義な場となりました。さらに、くじ引きによる初期席順の決定、色分けしたネームストラップの活用、途中での席替えといった工夫を盛り込み、多様な交流が生まれるよう配慮しました。恒例のbingo大会も大いに盛り上がり、会場は終始和やかな雰囲気に包まれました。

開催後のアンケートでは、学生・学校関係者から「企業と直接話ができる有意義



だった」「交流の時間をさらに増やしてほしい」といった声が寄せられました。企業側からも採用活動につながる手応えを感じたとの意見がありました。

今回の交流祭典では、参加学校数が増加いたしましたが学生数はほぼ横ばいとなりました。今後も関係構築と継続的なフォローが重要であると改めて認識するとともに、日程や会場選定が学生動員に及ぼす影響にも配慮しながら、次回以降はさらなる交流促進と参加者満足度の向上を目指してまいります。

「大人の社会科見学」によって 「学び」「交流」「ビジネス創出」

経営者サミット委員会と関東支部、近畿支部、九州支部、中部支部の共催で、2025年10月9日(木)～10日(金)に「大阪・関西万博視察研修」を実施しました。今回は、各支部の国内視察とトップリーダー倶楽部とのコラボ企画として、多くの会員企業様にご参加いただきました。総勢38社、76名の方々に加え、ご来賓として経済産業省 近畿経済産業局 地域経済部次長の大平昌幸様、同局 次世代産業・情報政策課の小松希大様にも懇親会にご参加いただきました。

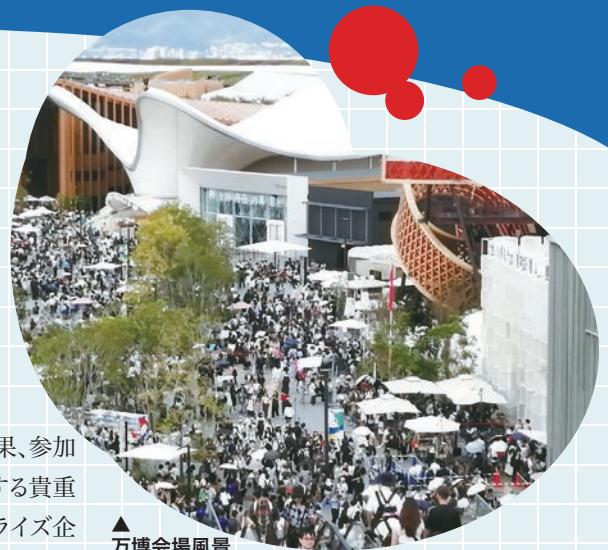
まず、10月9日(木)にホテルマイステイズ新大阪で開催された懇親会では、大平様よりご挨拶を賜り、万博の魅力や、近畿経済産業局としての地域産業活性化に向けた取り組みについて有意義なお話を伺いました。さらに、この機会を通じて現在検討が進んでいるJASA改革プロジェクトに対して、経産省と意見交換をする機会を持つことができました。

今回は国内視察とのコラボレーションということで、経営層だけでなく比較的若手の参

加者も多く、懇親会では世代間での活発な交流が行われました。その結果、参加者同士がそれぞれの考え方を理解する貴重な機会となったようです。また、サプライズ企画として、参加企業に1分間スピーチをお願いし、それぞれの取り組みを紹介していただきました。複数支部の共催ということで、近畿支部と他支部の間での人脈形成にも寄与したと考えています。今後、地域を超えた協業によってビジネスの拡大が進むことを期待しています。

翌日、10月10日(金)は薄曇りの天候で、屋外視察には最適なコンディションとなりました。最終日となる10月13日(月)はあいにくの雨となりましたが、皆さんの日頃の行いが良かったおかげでしょう。参加者は77名となり、予想通り会場内は大変混雑し、グループ行動が難しい状況でした(10月10日の入場者数:242,159人)。西ゲートから10:00指定の専用列に並び、入場した頃には、ほとんどの方がバラバラになったようです。

パビリオンでは、事前に近畿支部の方々から情報提供があったこともあり、会場西側に配置されたコモンズ館や、北西部の未来の都市パビリオンなどが多くの参加者に視察されていました。屋外では、西南側の海上で空飛ぶクルマのデモフライトが行われ、その姿を大屋根リング上からも見ることができます。



万博会場風景

た。ちなみに、スカイドライブ社の空飛ぶクルマは1台あたり約2億円で販売されており、操縦免許の整備が今後の課題となるようです。

また、鉄腕アトムがシンボルとなっているパソナグループのPASONA NATURE-VERSEパビリオンでは、IPS細胞から作られた心臓のモデルが培養液の中で実際に拍動している様子が見られました。この技術は、臓器移植以外の方法で難病を克服する可能性があり、将来が非常に楽しみです。

各国の文化や未来の技術を直接体験することで、社会課題の解決に向けた創造力が大いに膨らみました。これらの技術や発想を基に、皆様の新たなビジネス創出に役立てば、今回の開催が大きな意義を持つことと思います。



懇親会の様子



西脇 資哲氏

JASA 会員一覧

(2026年1月)

北海道支部

HISホールディングス株式会社	http://www.hokuyois.co.jp
株式会社技研工房	https://www.giken-k.biz
株式会社クレスコ 北海道開発センター	https://www.cresco.co.jp
株式会社コア 北海道カンパニー	http://www.core.co.jp
株式会社シー・エヌ・エス	http://www.cnws.co.jp
株式会社Stableソフト	https://stablesoft0801.com
株式会社テクノラボ	https://www.techno-labo.co.jp
デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社函館分室	https://www.ditgroup.jp
株式会社ブライセン 札幌R&Dセンター	https://www.brycen.co.jp
株式会社リッジワークス	https://www.ridgeworks.co.jp

東北支部

株式会社イーアールアイ	http://www.erii.co.jp
株式会社イーエムエス	https://ems-to.jp
株式会社コア 東関東カンパニー	http://www.core.co.jp
株式会社CIC 東北支店	https://www.cichdgroup.com
国立大学法人東北大大学 情報科学研究所教授 青木研究室	http://www.tohoku.ac.jp
株式会社ビッツ 東北事業所	https://www.bits.co.jp

関東支部

一般社団法人IIOT	https://www.iiot.or.jp
株式会社アイ・エス・ビー	https://www.isb.co.jp
一般社団法人iCD協会	https://www.icda.or.jp
一般社団法人ICT CONNECT 21	http://ictconnect21.jp
一般社団法人IT検証産業協会	https://www.ivia.or.jp
株式会社アクティブ・ブレインズ・トラスト	https://active-brains-trust.jp
アストロデザイン株式会社	https://www.astrodesign.co.jp
株式会社アックス	http://www.axe.bz
株式会社アットマークテクノ	https://www.atmark-techno.com
アップウインドテクノロジー・インコーポレイテッド	http://www.upwind-technology.com
株式会社アトム技研	https://www.atom-gkn.co.jp
アドバンストシステムズ株式会社	http://www.asco.jp
株式会社アドバンスド・データ・コントロールズ	http://www.adac.co.jp
株式会社アフレル 東京支社	https://afrel.co.jp
アンドールシステムサポート株式会社	https://www.andor.jp
イーエルシステム株式会社	https://www.el-systems.co.jp
イーソル株式会社	https://www.esol.co.jp
株式会社イーテクノロジー	https://www.e-technology.co.jp
イマジネーションテクノロジーズ株式会社	https://www.imgtec.com
株式会社インサイトワン	http://www.insight-one.co.jp
株式会社インテック	https://www.intec.co.jp
株式会社インフォテック・サーブ	http://www.infotech-s.co.jp
ワインボンド・エレクトロニクス株式会社	https://www.winbond.com/hq?__locale=ja
株式会社エクス	http://ex-s.co.jp
株式会社エクスマーション	https://www.exmotion.co.jp
株式会社SRA	https://www.sra.co.jp
SHコンサルティング株式会社	https://www.swhwc.com
STマイクロエレクトロニクス株式会社	https://www.st.com
株式会社NSP	http://www.nsp-ltd.co.jp

株式会社NTTデータMSE	https://www.nttd-mse.com
株式会社NTTデータ オートモビリジェンス研究所	https://www.zipc.com
株式会社エヌデーター	https://www.nddhq.co.jp
株式会社エンファシス	http://www.emfasys.co.jp
株式会社エンベックスエデュケーション	https://www.embex-edu.com
ガイオ・テクノロジー株式会社	https://www.gaio.co.jp
株式会社金沢エンジニアリングシステムズ	https://www.kanazawa-es.com
学校法人金沢工業大学産業連携室	https://www.kanazawa-it.ac.jp
株式会社ギガ	https://www.giga.core.co.jp
キーサイト・テクノロジー株式会社	https://www.keysight.com/jp/ja
一般社団法人行政情報システム研究所	https://www.iais.or.jp
特定非営利活動法人組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会	http://www.sessame.jp
一般社団法人組込みマルチコアコンソーシアム	https://www.embeddedmulticore.org
株式会社グレープシステム	https://www.grape.co.jp
株式会社クレスコ	https://www.cresco.co.jp
グローバルソリューションコンサルティング株式会社	https://www.gicip.com
K-Best Technology株式会社	https://kbestjp.com
株式会社コア	http://www.core.co.jp
コードギア株式会社	https://www.codegear.co.jp
一般財団法人国際情報化協力センター	https://cicc.or.jp
株式会社コマス	http://www.comas.jp
株式会社コンセプトアンドデザイン	https://www.candd.co.jp
サイバートラスト株式会社	https://www.cybertrust.co.jp
株式会社CRI・ミドルウェア	https://www.cri-mw.co.jp
株式会社CIC	https://www.cichdgroup.com
CQ出版株式会社	https://www.cqpub.co.jp
SHAREWORK株式会社	https://sharework-corp.jp
JRCエンジニアリング株式会社	http://www.jrce.co.jp
株式会社ジェーエフピー	http://www.jfp.co.jp
一般社団法人J-TEA	http://www.j-tea.jp
ジェネシス株式会社	http://www.genesys.gr.jp
株式会社システム計画研究所	https://www.isp.co.jp
株式会社システムサイエンス研究所	http://www.sylc.co.jp
一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会	http://www.ccds.or.jp
一般社団法人情報サービス産業協会	https://www.jisa.or.jp
一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会	https://www.ciaj.or.jp
一般社団法人スキルマネージメント協会	http://www.skill.or.jp
株式会社STELAQ	https://stelaq.co.jp
株式会社ストラテジー	http://www.k-s-g.co.jp
一般社団法人セキュアIoTプラットフォーム協議会	https://www.secureiotplatform.org
株式会社ゼロソフト	https://www.zerone-01.co.jp
株式会社ゼロワン	https://www.zerosoft.co.jp
ソーバル株式会社	https://www.sobal.co.jp
株式会社Sohwa & Sophia Technologies	http://www.ss-technologies.co.jp
一般社団法人ソフトウェア協会	https://www.saj.or.jp
一般社団法人ソフトウェア情報センター	http://www.softic.or.jp
第一生命保険株式会社	http://www.dai-ichi-life.co.jp
一般社団法人体験設計支援コンソーシアム	http://www.cxds.jp
株式会社チェンジビジョン	http://www.change-vision.com
株式会社DTSインサイト	https://www.dts-insight.co.jp

株式会社D・Ace	http://d-ace.co.jp
ディジ インターナショナル株式会社	http://www.digi-intl.co.jp
TDIプロダクトソリューション株式会社	http://www.tdips.co.jp
テクマトリックス株式会社	https://www.techmatrix.co.jp
デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社	http://www.ditgroup.jp
デンセイシリウス株式会社	https://www.denseisirius.com
株式会社電波新聞社	https://www.dempa.co.jp
東京電機大学 未来科学部	http://web.dendai.ac.jp
東芝情報システム株式会社	https://www.tjsys.co.jp
東信システムハウス株式会社	http://www.toshin-sh.co.jp
株式会社トーセーシステムズ	https://www.toseisystems.co.jp
株式会社東光高岳	https://www.tktk.co.jp
特定非営利活動法人TOPPERSプロジェクト	http://www.toppers.jp
トロンフォーラム	http://www.tron.org
株式会社ナイトテクノロジー	https://k-tech.co.jp
株式会社日新システムズ 東京支社	https://www.co-nss.co.jp
日本システム開発株式会社	http://www.nskint.co.jp
株式会社日本製鋼所 広島製作所	https://www.jsw.co.jp
日本生命保険相互会社	https://www.nissay.co.jp
日本ローター・バッハ株式会社	https://www.lauterbach.com/jindex.html
ノアソリューション株式会社	http://www.noahsi.com
株式会社ノードウス	https://www.nodus-inc.com
パーソルクロステクノロジー株式会社	https://persol-xtech.co.jp
株式会社ハイスポット	http://www.hispot.co.jp
株式会社パトリオット	http://www.patriot.co.jp
ハル・エンジニアリング株式会社	https://www.haleng.co.jp
ビ・エモーションA.I.株式会社	https://www.beemotion.ai
株式会社ピーアンドピービューロウ	https://www.pp-web.net
ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ株式会社	http://biz3.co.jp
株式会社日立産業制御ソリューションズ	https://www.hitachi-ics.co.jp
株式会社ビッツ	https://www.bits.co.jp
株式会社ブライセン	https://www.brycen.co.jp
マルツエレック株式会社	https://www.marutsu.co.jp
株式会社メタテクノ	https://www.meta.co.jp
モバイルコンピューティング推進コンソーシアム	https://www.mcpc-jp.org
ユタカ電気株式会社	http://www.yutakaelectric.co.jp
株式会社ラデックス	https://www.rdx.co.jp
株式会社来夢多 [®]	http://www.ramuda.co.jp
一般社団法人RISC-V協会	https://www.riscv.or.jp
リネオソリューションズ株式会社	https://www.lineo.co.jp
株式会社連基	https://www.cnct.world
早稲田大学 グローバルソフトウェアエンジニアリング研究所	http://www.washi.cs.waseda.ac.jp

中 部 支 部

株式会社ヴィッツ	https://www.witz-inc.co.jp
株式会社ウォンツ	http://www.wantsinc.jp
有限会社OHK研究所	
株式会社OTSL	http://www.otsl.jp
株式会社コア 中部カンパニー	http://www.core.co.jp
三幸電子株式会社	http://www.sanko-net.co.jp
株式会社サンテック	http://www.suntec.co.jp
株式会社テクノフュージョン	http://www.tfusion.co.jp
デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社	https://www.ditgroup.jp

東海ソフト株式会社	http://www.tokai-soft.co.jp
東洋電機株式会社	http://www.toyo-elec.co.jp
萩原電気ホールディングス株式会社	https://www.hagiwara.co.jp
株式会社バッファロー	http://buffalo.jp
半田重工業株式会社	https://hanju.co.jp
ベルエアーシステムズ株式会社	https://www.belairsystems.jp
株式会社明理工業	http://www.meiri.co.jp
株式会社ユタカ電子	https://www.yutakadensi.co.jp

近畿 支 部

株式会社暁電機製作所	https://www.arunas.co.jp
株式会社アクシアソフトデザイン	http://www.axia-sd.co.jp
株式会社アフレル	https://afrel.co.jp
イーエルシステム株式会社	http://www.el-systems.co.jp
HIK株式会社	https://www.hik-jv.jp
株式会社大阪エヌデーエス	https://www.nds-osk.co.jp
一般財団法人関西情報センター	http://www.kiis.or.jp
組込みシステム産業振興機構	http://www.kansai-kumikomi.net
株式会社クレスコ 大阪事業所	https://www.cresco.co.jp
株式会社コア 関西カンパニー	http://www.core.co.jp
コネクトフリー株式会社	https://connectfree.co.jp
株式会社Communication Technologies Inc.	https://www.cti.kyoto
株式会社システムクリエイティブ	https://systive.co.jp
株式会社システムプランニング	http://www.sysplnd.co.jp
株式会社XIN	https://www.xin-corp.co.jp
スキルシステムズ株式会社	https://skill-systems.co.jp
株式会社ステップワン	http://www.stepone.co.jp
住友電工システムソリューション株式会社	https://www.seiss.co.jp
株式会社窓飛	http://www.sohi.co.jp
株式会社ソフト流通センター	http://www.k-src.jp
株式会社たけびし	http://www.takebishi.co.jp
株式会社タダノ	http://www.tadano.co.jp
株式会社D・Ace 大阪支社	http://d-ace.co.jp
デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社	https://www.ditgroup.jp
有限会社中野情報システム	http://nakanoinfosystem.com
株式会社日新システムズ	https://www.co-nss.co.jp
日本メカトロン株式会社	http://www.n-mec.com
株式会社ハネロン	http://www.haneron.com
株式会社Bee	http://www.bee-u.com
株式会社ビッツ 関西事業所	https://www.bits.co.jp
株式会社bubo	https://www.bubo.inc
株式会社FLAPS	https://www.e-flaps.com
株式会社村田製作所	https://www.murata.com/ja-jp
株式会社ルナネクサス	http://www.luna-nexus.com

九 州 支 部

株式会社エフェクト	http://www.effect-effect.com
株式会社クレスコ 福岡開発センター	https://www.cresco.co.jp
株式会社コア 九州カンパニー	http://www.core.co.jp
株式会社CIC 九州営業所	https://www.cichdgroup.com
株式会社メック	https://www.mecc.co.jp
柳井電機工業株式会社	http://www.yanaidenki.co.jp

・個人会員 9名

横田英史の 書籍紹介コーナー



基盤モデルとロボットの融合 ～マルチモーダルAIでロボットはどう変わるのか～

河原塚健人、松嶋達也
講談社 3,630円(税込)

生成AIのロボットへの適用手法を解説した書。事例は研究やシミュレーションのレベルだが、生産現場や生活空間におけるロボット利用の将来像を垣間見ることができる。フィジカルAIへの関心が高まるなか時宜にかなった書だ。

中核はマルチモーダルに対応し、テキスト、画像、音声、動画、センサーデータなどを扱える汎用性の高い「基盤モデル」である。基盤モデルによってロボットの認識や制御の仕組みが大きく変わる。大規模言語モデル(LLM)や視覚言語モデル(VLM)、音声言語モデル(ALM)といったモデル同士が「言語」を介して議論し、情報を共有することで様々なアプリケーションへの対応が可能になる。

LLMは人間の常識的な知識をある程度まで包含している。この前提知識を活用することで、ロボットは認識や計画といったタスクを自律的にこなせるようになる。

脳・心・人工知能(増補版) ～数理で脳を解き明かす～

甘利俊一
講談社ブルーバックス 1,210円(税込)

生成AIや深層学習、機械学習の興隆に大きな貢献をした数理工学者 甘利俊一の手による人工知能の啓蒙書。最近の生成AIブームを踏まえて、新たに3つ

の章を追加した増補版である(初版は2016年)。追加した3章では「現代AIの基本技術～深層回路網と生成AI」「心と意識～AIは心を持つか」「AI時代の文明と社会」と、時宜にかなったテーマを取り上げる。

筆者は、2024年のノーベル物理学賞を受賞したジェフリー・ヒントンやジョン・ホップフィールドに先んじて、誤差逆伝播法と連想記憶モデルを提唱した。AI興隆の源流と再評価されている。本書で筆者は、「人工知能と神経回路網の理論研究の源流は日本にもあり、その成果が国際的に活かされてAI時代を迎えた」と述べる一方で、日本の研究が国際的には十分に認知されていないことに不満を漏らす。

勝負師 孫正義の冒険(上)(下)

ライオネル・バーバー、村井浩紀・訳
日経BP 日本経済新聞出版
上下巻とも1,980(税込)

異形のビジネスマン「孫正義」の深層に迫ったノンフィクション。その行動パターンと行動原理を探る。筆者は、21世紀最強の大立者と持ち上げる一方で、孫の常識外れのビジネス手法を「うさんくさきを撒き散らし、危ない橋をわたる」と批判的に分析する。

上巻では孫が大化けする前の時代を紹介する。ソフト卸売会社であるソフトバンク設立、米国企業買収(ジフ・デイビス出版部門、展示会コムテックス)、ヤフーやアリババへの投資などである。

下巻は、中国アリババや英ARMへの

巨額投資の大成功、ボーダフォン買収による携帯事業参入とiPhoneの国内独占販売、ウィーワークス投資の大失敗、ビジョンファンドの栄光と苦境、OpenAIなどと組んだステーキートプロジェクト、後継者争いに至るまで盛り沢山。意思決定の難しい状況の連続で、タイトルの「勝負師」の面目躍如だ。

創造的破壊の力 ～資本主義を改革する22世紀の国富論～

フィリップ・アギヨン、セリーヌ・アントニン、
サイモン・ズネル、村井章子・訳
東洋経済新報社 4,620円(税込)

2025年ノーベル経済学賞受賞者の書。イノベーションをテコにしながら持続的で富の偏在のない経済成長を成し遂げるために、税制や教育制度といった政治的施策で資本主義国家が選ぶべき道を提示する。広い視野から展開する議論はバランスが良く読み応えがある。

フランスの教育機関「コレージュ・ド・フランス」における講義をもとにした書で、400ページを超える大著だが読む価値がある。余白の大きなレイアウトなので意外に早く読み終えることができる。イノベーションについて関心のある方にお薦めだ。

シェンペーター的経済成長理論を拠り所に、5つの経済的謎を解明する。工業からサービス産業への移行や、キャッチアップ経済からイノベーション経済への移行がなぜ起こるかについても言及する。実証研究の客観的・定量的データを用いて論じており説得力に富む。

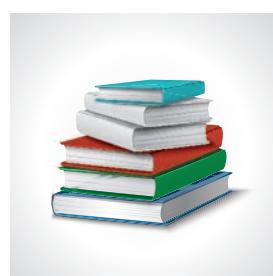
横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現日経クロステック)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。2004年11月、日経パトナーズ発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役に就任。2018年3月退任。

2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、2020年4月(株)DXパートナーズ アドバイザリーパートナー、2024年3月(株)観濤舎を設立 代表取締役社長、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係ありません。



ミドルステージ戦略委員会 募集案内

JASA関東支部では、次世代を担うミドルステージ(30代後半～40代)を対象とした「ミドルステージ戦略委員会(仮)」を立ち上げます。

利害関係のない企業横断的な小グループで、変革リーダーシップ、経営視点、未来構想などの業界の課題に向き合い、自社に還元できる実践的な活動を目指しています。

月1～2回の対面開催です。ご応募をお待ちしています。

・申込フォーム

<https://forms.gle/dwbphhRSYNvMzgNA6>

募集締め切り:2026年1月31日



<ミドルステージ 現状と課題>

ミドルステージ

30代後半～40代の次世代を担っていくレイヤ

業界の課題

- 人材育成体系が十分でない
- 業界内のサイロ化
- 40代層の活性化不足

ミドルステージの役割

- 次世代リーダー育成と自己成長
- 業界横断的ネットワーク形成
- キャリア自律性と経営視点の確立

個人

- キャリア自律性と新ネットワーク

企業

- 次世代リーダー育成と人材定着

業界

- エコシステムの中核形成

この取り組みは、**参加しているみんなで育てていく活動**です

仲間と一緒に考えていくそんな活動を目指します

JASA新入会員企業紹介

株式会社アトム技研



〒251-0032 神奈川県藤沢市片瀬92-2 <https://www.atom-gkn.co.jp>

アトム技研は、産業機器分野を中心とした受託開発を行う技術会社です。企画から設計開発、組込み、製造、品質管理までをワンストップで対応し、お客様のご要望を丁寧にヒアリングしながら仕様検討段階から密に伴走します。対話を重ね、一緒に作り上げる開発スタイルで、現場で確実に機能する高品質な製品づくりを実現しています。

株式会社エクス



〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-6 神田平沼ビル <https://ex-s.co.jp>

株式会社エクスは、車載およびAV機器分野の組込みソフト開発を主力としています。特に長年の開発で培ったHMI・通信・モータ制御技術や、オーディオ機器の音響・無線制御に強みを持ち、顧客の高い品質要求にお応えします。CANやLINの通信ツールやクラウドシステムの自社製品や自社プラットフォーム開発実績も活かし、下位層からアプリまで幅広く支援いたします。JASAでの活動を通じ、産業の発展に貢献してまいります。

SHAREWORK株式会社



IT Services | BPO | Digital Solutions

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-15-33 栄ガスピル13F <https://sharework-corp.jp>

SHAREWORK株式会社(シェアワーク)は、日本市場における開発および顧客対応を担う日本法人として事業を行っております。ベトナム・ホーチミン市に本社を置く親会社と連携し、豊富な技術人材と安定した開発体制を強みとしております。組込みシステム分野では、C/C++によるファームウェア開発、RTOS対応、通信・デバイス制御、評価・検証まで幅広く対応しております。また、クラウド(AWS)、Web／モバイルアプリ、AI・OCR、自動化、BPOなどの分野にも取り組み、日本品質を重視した体制により、お客様の課題解決と付加価値の創出に貢献してまいります。

株式会社Stableソフト



〒060-0051 北海道札幌市中央区南1条東2丁目11-1 ノーザンヒルズ大通東9F <https://stablesoft0801.com>

株式会社Stableソフトは、組込みシステム領域を中心とした開発支援を行うSES企業です。C/C++をはじめとするプログラミング技術を基盤に、ファームウェア開発や制御系ソフトウェアの設計・実装に対応しています。交通系インフラや工場制御といった高信頼性が求められる分野での支援実績をもとに、高度な技術力と誠実な開発姿勢を通じて組込み分野への継続的な貢献を目指します。

株式会社ゼロワン



〒224-0041 神奈川県横浜市都筑区仲町台1-32-10-3F <https://www.zerone-01.co.jp>

株式会社ゼロワンは、2006年の創業以来、組込みに特化した開発を行っています。試作ボード設計・FPGA設計・カスタムボード設計などのハードウェアの開発から、カーネル・ドライバ・ファームウェア・アプリケーションなどのソフトウェアの開発まで幅広く対応しております。”ハードウェアのみ”、“ソフトウェアのみ”という開発ではなく、ソフト・ハード両方の視点からシステムを設計・開発できるのがゼロワンの強みです。

パーソルクロステクノロジー株式会社



パーソル クロステクノロジー

〒163-0451 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング51F <https://persol-xtech.co.jp>

パーソルクロステクノロジー株式会社は、自動車・航空宇宙・産業機械・家電・ロボットといったものづくり領域、コンサルティングから設計・開発まで横断的なソリューションを提供するIT領域、そして診断・運用、IoTを含むセキュリティ領域などにおいて、専門的な技術を持ったエンジニアが、あらゆる業界でお客さまの技術支援をしています。私たちは、「尖った技術」の力で人と組織のはたらき方に変革を起こすことで社会課題を解決してまいります。

■編集後記

あけましておめでとうございます。2026年の干支は丙午(ひのえうま)です。本誌の竹内会長の念頭所感にありますように、躍動感や前進を象徴する年で、縁起の良い年とされています。本年が皆さんにとっても、業界にとっても実りの多い年でありますように、心よりお祈り申し上げます。

本号の目玉は、JASA改革プロジェクトの成果報告「ソフトウェア駆動型社会への変革と日本の競争戦略～未踏の変革期へ踏み出す、確かに羅針盤～」です。報告書全文は68ページの力作ですが、2ページにまとめてもらいました。とても読みやすく、分かりやすい要約になっています。是非、ご一読下さい。JASAのホームページにはPowerPoint版やダイジェスト版もアップしています(<https://www.jasa.or.jp/lists/jasaplan2025/>)。

こちらも併せてお読み頂ければ幸いです。新しい挑戦や努力が実を結びやすい丙午の年に、JASAは皆さんとともに行動を起こします。機関誌であるBulletinJASAも、皆さんにとって役立つ情報を提供し続けたいと思います。ご期待下さい。

今号は通常号よりも4ページ増量の28ページ建てです。新年の挨拶や景況調査、SDV(Software Defined Vehicle)や生成AI/フィジカルAIで盛り上がったEdgeTech+2025のレビューのほか、インドの視察報告など盛りだくさんです。イベント、教育、交流、技術研究など、協会の活気ある活動を感じて頂けると思います。また景況調査では昨年を大きく上回る76社の会員企業から回答をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

広報委員長 横田英史

协会概要

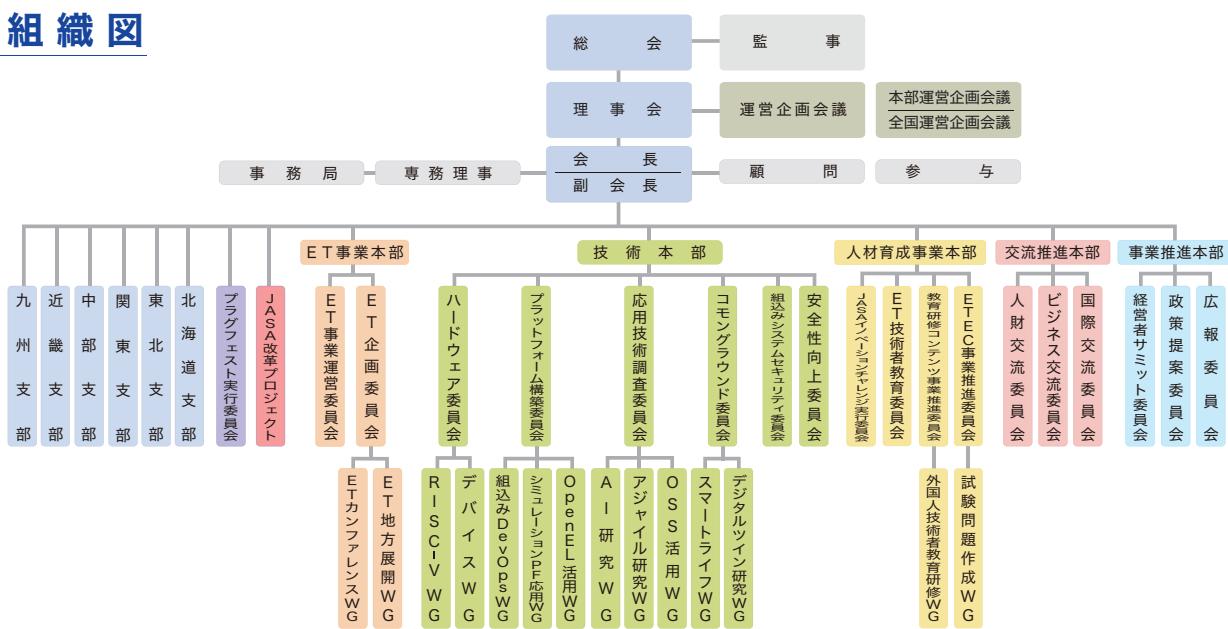
JASAは、組込みシステム技術とIoT・5G・AI等を包括するエッジコンピューティング技術の活用により、様々な産業分野を跨ぐ協会として、技術の普及・高度化、調査研究、人材育成、ビジネス創出等、広範な業界活動を積極的に展開しています。

名 称	一般社団法人組込みシステム技術協会 Japan Embedded Systems Technology Association (JASA)
会 長	竹内 嘉一
事 務 局	本部： 東京都中央区入船 1-5-11 弘報ビル 5 階 支部： 北海道、東北、関東、中部、近畿、九州
会 員 数	正会員 142 社 賛助会員 28 社 支部会員 20 社 学術会員 4 団体 個人会員 9 名
設 立	昭和 61 年 8 月 7 日 平成 24 年 4 月 1 日 一般社団法人へ移行
組 織	事業推進本部、交流推進本部、人材育成事業本部、技術本部、ET 事業本部
産業分類	日本標準産業分類 G-3912 組込みソフトウェア業

目的

組込みシステム(組込みソフトウェアを含めた組込みシステム技術をいう。以下同じ。)における応用技術に関する調査研究、標準化の推進、普及及び啓発等を行うことにより、組込みシステム技術の高度化及び効率化を図り、もって我が国の産業の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とする。

組織図



主な事業活動

協会広報及び政策提案等事業 ①『JASAビジョン2030』3カ年計画推進と次期計画の策定 ②企業と経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創機会の提供 ③ホームページ・機関誌等による業界広報の活性化と技術普及促進 ④産官学に向けたJASAブランド・ロイヤリティの向上⑤関係官庁、地方自治体、関連団体・協会等との連携推進

交流促進事業 ①海外動向等情報収集及び発信と国際化対応の支援 ②協業・ビジネスマッチング及び事業創造機会の創出 ③支部・地域団体と連携した情報発信 ④学生に向けた業界認知度の向上と交流イベントの運営

人材育成事業 ①ETEC(組込み技術者試験制度)によるスキル向上と技術者教育 ②教育コンテンツ整備と各種セミナー運営による人材育成事業強化 ③「ETロボコン」による若手技術者の教育機会を提供 ④VUCA時代の変化に強いビジネスパーソンを育成する集中トレーニング「仮設検証ブートキャンプ」の実施運営 ⑤外国人エンジニアの採用と就職支援

技術高度化・普及啓発事業 ①機能安全の課題や国際規格に関する調査研究と安全什様整備 ②IoTセキュリティの国際安全基準適合

の認証事業運営と「組込みセキュリティ教材」運営③実用IoTとCPS/コモングラウンドを実現するエッジコンピューティング技術の推進
④アジャイル開発に関する調査研究 ⑤AI活用技術の推進 ⑥シミュレーション技術を軸とした仮想環境実現の推進とOpenEL普及啓発
⑦JASA標準組込みDevOpsプラットフォームの構築 ⑧RISC-V及びOSSなどオープンな技術の発展、振興と普及啓発 ⑨インターフェース相互接続検証の場「日本プラグフェスト」の実施運営

展示会・イベント事業 ①エッジテクノロジーに新たなプラスで加速するDXと事業変革を推進する総合展「EdgeTech+」の開催
②オープンイノベーションイベント、協業イベントの企画運営と若手来場者の取り込み ③業界団体イベントとしての様々なコンテンツ提供 ④オートモーティブ等、応用分野の取り込みと、生成AI/AI/DX等最新情報発信

支部活動と地域活性化 ①支部・本部連携による、組み込みシステム技術の普及啓発 ②オンライン会議等を活用した、地域から全国レベルの情報発信 ③地域特性を生かした支部事業の活性化と会員相互の交流促進 ④地域における官公庁及び関連機関との情報交流と地域産業の活性化推進